

湖西市学校再編基本計画

【北部地区】

令和7年3月

湖西市

目次

はじめに	1
第1章 これまでの検討経緯.....	2
1. 湖西市立学校教育施設適正化検討委員会報告書（令和4年3月）	2
(1) 単学級における児童生徒数について.....	2
(2) 学級数について.....	3
2. 湖西市立小中学校再編方針（令和5年5月）	4
(1) 児童生徒数の推移.....	4
(2) 令和4～5年度実施の子育て世代のアンケート結果について.....	6
(3) 今後の方向性について.....	6
第2章 学校再編基本計画策定の流れ.....	7
1. 検討を行う再編案の抽出.....	7
2. 学校再編基本計画策定に向けた検討の流れ.....	8
(1) 検討する項目.....	8
(2) 検討の方法.....	9
第3章 再編案の検討.....	11
1. A案の検討	11
～ 東小学校と知波田小学校が統合・湖西中学校は岡崎中学校に統合 ～	11
(1) 再編の概要.....	11
(2) 再編スケジュール.....	11
(3) 児童生徒数・学級数.....	12
(4) 再編による効果・影響.....	13
(5) 校舎配置案.....	14
2. B案の検討 ～ 小中一体型 ～	16
(1) 再編の概要.....	16
(2) 再編スケジュール.....	16
(3) 児童生徒数・学級数.....	17
(4) 再編による効果・影響.....	18
(5) 校舎配置案.....	19
第4章 アンケート調査.....	20
1. 調査実施概要	20
2. アンケート調査結果.....	21

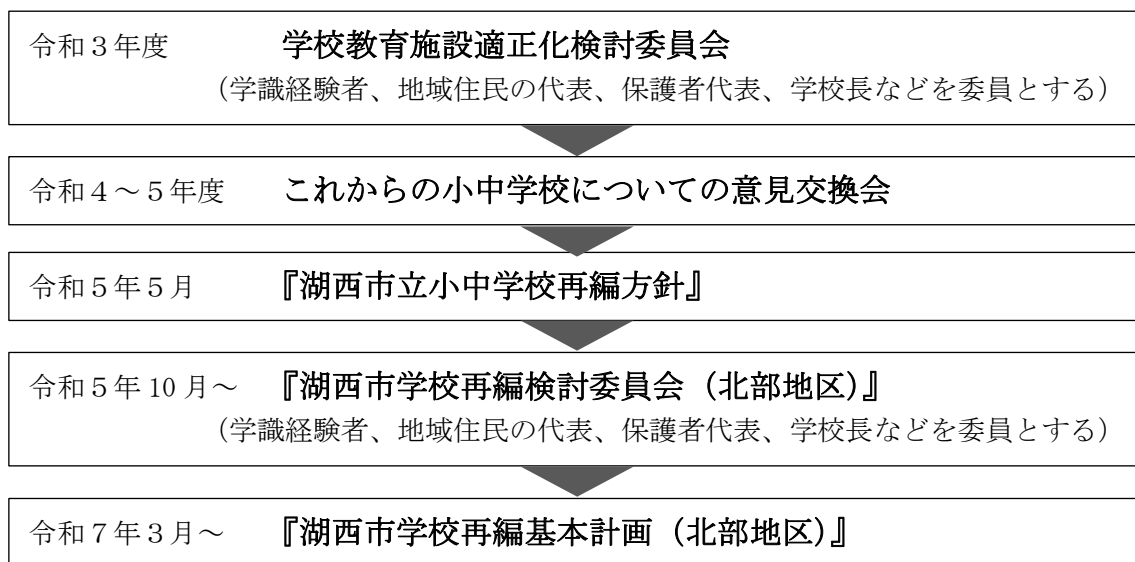
第5章 バス通学に関する検討.....	24
1. バス通学・自転車通学対象児童生徒数の算出.....	24
2. バス通学にかかる概算費用の試算.....	24
第6章 概算工事費の検討.....	25
第7章 再編案の評価.....	26
1. 再編案の評価	26
2. 望ましいと考える再編案.....	27
3. 再編時期	28
4. 今後の検討事項	29
おわりに	30
資料編	1
1. 過年度報告書【抜粋】	1
2. アンケート調査用紙.....	7
3. バス通学に関する検討.....	10
4. 北部地区学校再編検討委員会.....	20
5. 保護者、地域住民との意見交換会.....	21

はじめに

全国的に少子化が進んでおり、湖西市（以下「本市」という。）でも直近 40 年ほどで児童生徒数が半減しています。現在の小中学校は、保護者や地域の方々の協力を得ながら、学校運営を工夫することで、子どもたちの健やかな成長を促すことができる環境が維持されています。しかし、少子化の波により、子どもたちのコミュニケーション能力の育成、多様な考え方から学びを深める機会の保障など、これまでの教育環境の維持が懸念されています。

湖西市教育委員会では、急激な少子化の進行を考慮し、令和 3 年 6 月に学校教育施設適正化検討委員会（以下「適正化検討委員会」という。）を設置しました。適正化検討委員会では、子どもたちにとってよりよい教育環境を充実させることを基本的な考え方として、その結果を令和 4 年 3 月に報告書にまとめました。その後、湖西市教育委員会では、この報告書を基に、令和 4 年 5 月から、保護者や地域の方々を対象に「これからの小中学校について意見交換会」を実施し、意見交換を行いました。そこでの意見や子育て世代を対象にしたアンケート結果等を踏まえ、本市として、今後のよりよい教育環境の実現に向けた「湖西市立小中学校再編方針」を令和 5 年 5 月にまとめました。

以上の状況を踏まえ、北部地区において学校再編検討委員会（以下「再編検討委員会」という。）を立ち上げ、具体案を示しながら議論し、学校再編基本計画を策定することを目的とします。



第1章 これまでの検討経緯

1. 湖西市立学校教育施設適正化検討委員会報告書（令和4年3月）

「湖西市立学校教育施設適正化検討委員会報告書（令和4年3月）（以下「適正化検討委員会報告書」という。）」では、子どもたちにとってよりよい教育環境を充実させることを基本的な考え方として、小規模の小中学校（東小学校、知波田小学校、白須賀小学校、湖西中学校、白須賀中学校）の望ましい児童生徒数、学級数について以下のように取りまとめています。

（1）単学級における児童生徒数について

①小規模小学校（東小学校、知波田小学校、白須賀小学校）

令和3年度において、東小学校、知波田小学校の児童数は全学年が単学級となっており、1学級25人前後となっています。小学校において全ての学年で単学級だった場合、子どもたちが健やかに成長するために必要な最低人数について、検討した結果、以下のようになりました。

表：本市における小規模小学校の望ましい教育環境

教育環境	理由【抜粋】
【1学年の児童数】 20人以上	・集団活動によって、他者との相違点に気付きながら、社会に出るために必要な資質・能力を身につけていくことができる。 ・人数が少なすぎると、人間関係の修復が難しくなってしまった場合に、逃げ道がなくなってしまう。

②小規模中学校（湖西中学校、白須賀中学校）

令和3年度では、湖西中学校で3学年全てが2学級になっています。令和15年度になると湖西中学校で1学年1学級になる学年もみられるようになります。中学校において全ての学年で単学級だった場合、子どもたちが健やかに成長するために必要な最低人数について、検討した結果、以下のようになりました。

表：本市における小規模中学校の望ましい教育環境

教育環境	理由【抜粋】
【1学年の生徒数】 30人以上	・切磋琢磨しながら学校生活を送り、心身を大きく成長させることができる。 ・人間関係に問題が生じた場合でも、新たな人間関係を築きやすい。

(2) 学級数について

①小規模校（東小学校、知波田小学校、白須賀小学校、湖西中学校、白須賀中学校）

全ての学級が単学級の小規模校においては、近い将来、小学校で 20 人以上、中学校で 30 人以上を維持することが難しくなっていきます。そこで、1 学年でどれくらいの学級数が子どもたちにとって望ましい教育環境として必要であるのかについて検討した結果、以下のようになりました。

表：本市における小中学校の望ましい教育環境

教育環境	理由【抜粋】
【1 学年の学級数】 <u>2 学級以上、</u> <u>できれば 3 学級</u>	・人間関係に大きな問題が生じた場合には、子どもにも、保護者にも居場所がなくなってしまう可能性が高い。 ・学級ごとに競い合う学校行事を通して、協力することの大切さを学ぶことができる。

2. 湖西市立小中学校再編方針（令和5年5月）

再編方針においては、将来的に1学級15人以下となった場合のメリット、デメリットを比較した結果、デメリットの方が大きくなると考えました。

したがって、小規模校の小学校、中学校では、何らかの手法を用いて適正配置の検討が必要であることから、東小学校、知波田小学校、白須賀小学校、湖西中学校、白須賀中学校において、どのような配置が望ましいのかについて基本的な方針をまとめることとしました。

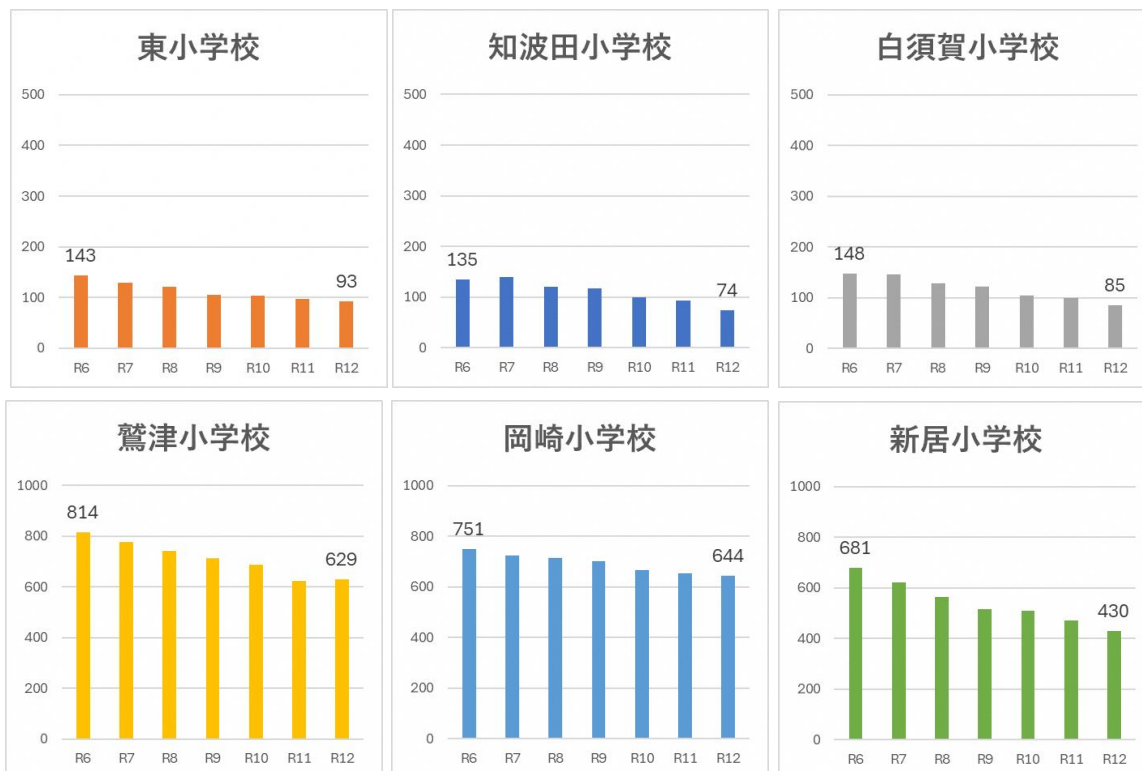
児童生徒数の推移、アンケート調査結果、再編方針で示された「今後の方向性」は次の通りです。

（1）児童生徒数の推移

①小学校児童数の推移（見込）

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
東小学校	143	129	121	105	103	97	93
知波田小学校	135	140	121	117	100	94	74
白須賀小学校	148	146	128	122	104	100	85
鷺津小学校	814	775	742	711	686	622	629
岡崎小学校	751	723	716	701	666	654	644
新居小学校	681	622	565	516	509	470	430

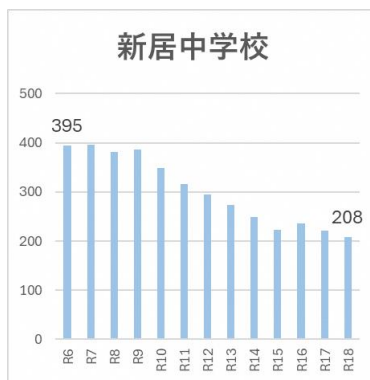
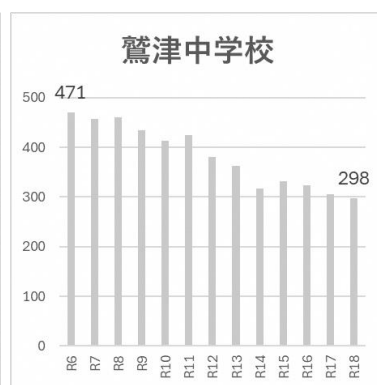
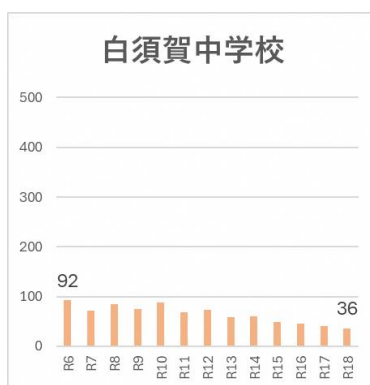
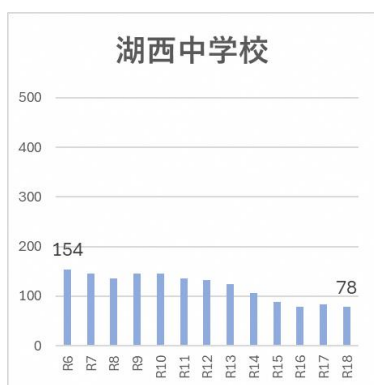
※再編方針で提示した児童数から R6. 5. 1 現在の児童生徒数と未就学児数による推計値に更新しています。



②中学校生徒数の推移（見込）

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
湖西中学校	154	146	136	145	145	135	133	124	107	89	79	84	78
白須賀中学校	92	72	85	75	87	68	73	59	60	49	45	40	36
鷺津中学校	471	458	460	434	413	425	380	362	317	331	324	305	298
岡崎中学校	365	384	375	383	381	386	368	342	330	333	324	324	311
新居中学校	395	396	382	387	349	316	294	273	249	222	236	221	208

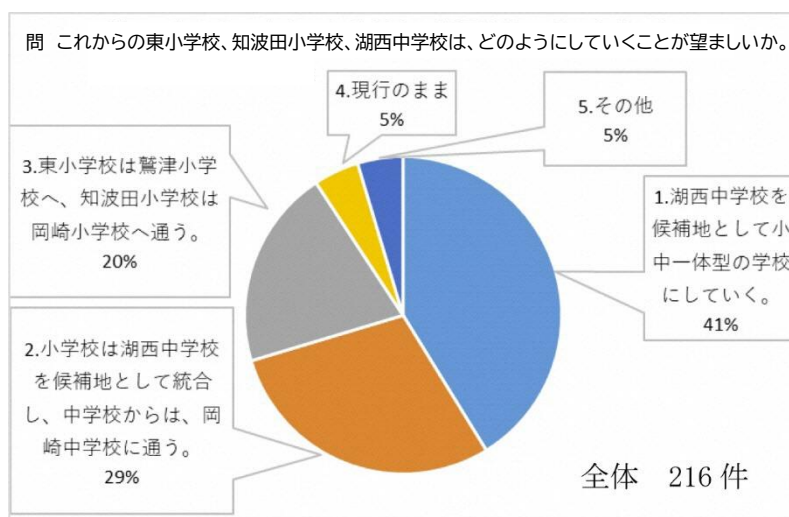
※再編方針で提示した生徒数から R6. 5. 1 現在の児童生徒数
による推計値に更新しています。



(2) 令和4～5年度実施の子育て世代のアンケート結果について

令和5年3月に小学校入学前、小学生のお子さんをお持ちの子育て世代の方を対象としたアンケートを実施しました。北部地区の再編案として4つの案を提示し、今後の方向性として望ましいと考える案を選択してもらいました。提示した再編案は、第1案「湖西中学校を候補地として小中一体型の学校になる案」、第2案「小学校は湖西中学校を候補地として統合し、中学校からは、岡崎中学校に通う案」、第3案「東小学校は鷺津小学校へ、知波田小学校は岡崎小学校に通う案」、第4案「その他」です。

調査では216件（対象：373世帯）の回答（回答率：57.9%）があり、「これからの東小学校、知波田小学校、湖西中学校は、どのようにしていくことが望ましいのか」について、第1案が41%、第2案が29%、第3案が20%となりました。



図：令和4～5年度実施の子育て世代のアンケート結果

(3) 今後の方向性について

アンケート結果からも、「小学校は湖西中学校を候補地として統合する」ことが、北部地区のこれからの子供たちの教育環境として最も適していると考えます。中学校について、「小中一体型にする」のか、「岡崎中学校に通う」のかは、さらに検討が必要であるとしています。

第2章 学校再編基本計画策定の流れ

学校再編基本計画の検討の進め方を整理します。「再編方針」で示されている通り、学校再編基本計画の検討においては、北部地区に在住の方をメンバーに含めた「再編検討委員会」を設置し、具体案を示しながら議論し、学校再編基本計画を策定します。

1. 検討を行う再編案の抽出

今回検討する再編案は、次の2案とします。「再編方針」にて、北部地区のこれからの子どもたちの教育環境として最も適していると記されている「小学校は湖西中学校を候補地として統合し、中学校は岡崎中学校に通う案（A案）」と「小学校は湖西中学校を候補地として統合し、中学校を湖西中学校に小中一体型として設ける案（B案）」について検討を行います。

表：検討を行う再編案

【A案】	小学校は湖西中学校を候補地として統合し、中学校は岡崎中学校に通う案
【B案】	小学校は湖西中学校を候補地として統合し、中学校を湖西中学校に小中一体型として設ける案

なお、第2回再編検討委員会において、「小学校から大規模校へ通う案の検討を」という意見が出されましたが、次の観点から「小学校は湖西中学校を候補地として統合する」というA案、B案の2案を基本として検討を行うこととしました。

表：小学校は湖西中学校を候補地として統合する理由

①地域で育て、地域に学校を支えてもらう	農業体験や、地域の歴史、文化に触れるという体験など、今の小学校は地域の方の協力を受けながら豊かな経験ができています。地域の・自然・歴史・文化・産業等を北部の地域の方々から学び、豊かな体験を積み重ねることで、興味・関心の幅を広げていくことが大切と考える。
②子どもの通学に係る負担、リスクの軽減	湖西中学校の場所であれば比較的歩いて通える子も多く、安心・安全で通えるという環境が確保され则认为る。

2. 学校再編基本計画策定に向けた検討の流れ

(1) 検討する項目

各再編案の検討は次の通り行います。はじめに「再編スケジュールの検討」、「児童生徒数の推計」、「再編による効果・影響の整理」を行います。また、推計した再編時の児童生徒数をもとに「校舎配置案の検討」を行います。次に、これまでの検討結果を提示した上で「子育て世代アンケート調査」を実施し、北部地区の保護者及び子どもたちの再編に対する意向を把握します。その後、「概算工事費の算出」、「バス通学及び自転車通学対象児童生徒数の算出」、「バス通学にかかる概算費用の試算」を行います。

最後に、今回検討した項目により、各再編案を総合的に比較検討し、最も望ましいと考えられる再編案を決定します。

【検討する項目および流れ】



(2) 検討の方法

今回検討を行う再編案ごとに、今後の検討課題において次の方法で検討を行います。

①再編スケジュールの検討

再編スケジュールは、令和6年度に再編基本計画が決定されるものとして、最短3年で再編を実施すると想定し、学校再編にともなう工事等を踏まえて再編時期を適切に設定します。また、学校再編までの間は、学校統合に向けて学校再編時の児童生徒への影響を少なくするために学校間交流事業を実施することとし、学校間交流事業のスケジュールについても整理します。

②児童生徒数・学級数の推計

令和6年5月1日現在の児童生徒数と未就学児の人数を単純推移して再編時の児童生徒数と学級数を算出します。また、再編する中学校についてはこの方法で推計が可能な令和18年度の生徒数について、北部地区の将来推計として算出します。

この方法での児童生徒数の推計は、本市の人口減少の影響を全て考慮することは困難ですが、再編時の最大の児童生徒数を把握することが可能であり、再編時に必要となる教室数等を把握することができます。

③再編による効果・影響の整理

再編による効果や影響として、再編時の児童生徒数と学級数による教育環境への影響などについて整理します。

④校舎配置案の検討

把握した児童生徒数により必要教室数等を整理し、校舎の増築、教室の改修、遊具の設置、不要施設の撤去等、必要な改修工事などについて検討し、校舎配置案として整理します。

⑤子育て世代アンケート調査

これまでに検討した「再編スケジュール」、「再編時の児童生徒数・学級数」、「再編による効果・影響」、「校舎配置案」を提示した上で、子育て世代アンケート調査を実施し、児童生徒及び保護者の学校再編に対する意向を把握します。調査対象は、北部地区在住の0歳児から小学校6年生までの子どものいる世帯(対象:284世帯)とします。なお、アンケート依頼文に「回答は各世帯1回答とし、お子様と相談し回答していただくよう」に記載し、学校再編による影響が直接ある保護者と子どもの意見を可能な限り把握できるように調査を実施します。

⑥バス通学及び自転車通学対象児童生徒数の算出

本市においては、現状 3 k m を超える場合にコーちゃんバスを利用している児童がいることから、再編案の比較検討のために小学校は 3 k m 以上の場合、中学校は 6 k m 以上の場合をバス通学として、各再編案を実施した場合のバス通学対象児童生徒数を整理します。

はじめに現在の通学路をもとに再編後の通学路を設定し、地図にて各地点の通学距離を測定します。その後、行政区内の住宅が存在する地点の学校からの距離が、基準とする距離を超える場合、その行政区の児童生徒数をバス通学及び自転車通学対象児童生徒数として整理します。

なお、詳細なバス通学対象児童生徒数、バスルート、バス乗降場所などについては、学校再編基本計画策定後に設置する「北部地区小中学校統合準備委員会（仮称）」で検討します。

⑦バス通学にかかる概算費用の試算

各再編案のバス通学にかかる概算費用は、算出したバス通学対象児童生徒数と民間事業者へバス通学を委託した場合の参考事例をもとにして試算します。

なお、詳細なバス通学に関する費用については、「北部地区小中学校統合準備委員会（仮称）」で検討します。

⑧概算工事費の試算

作成した校舎配置案の整備及び必要な仮設校舎の設置を行うために必要な概算工事費を算出します。現時点では具体的な工事内容を確定することが困難であるため、暫定的に大まかな工事内容を設定した上で、近年の工事単価データを参考に、概算工事費を試算します。

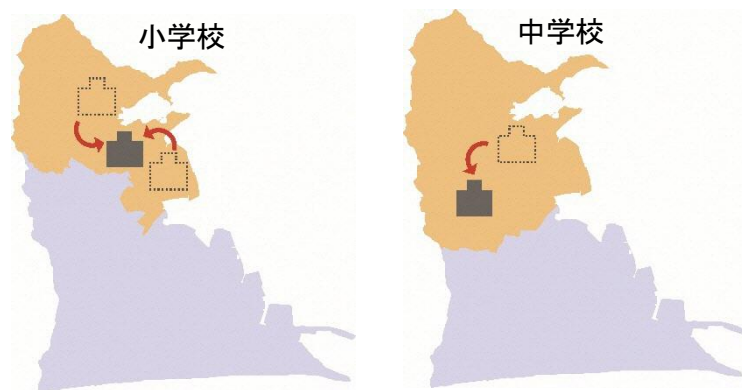
第3章 再編案の検討

1. A案の検討

～ 東小学校と知波田小学校が統合・湖西中学校は岡崎中学校に統合 ～

(1) 再編の概要

東小学校と知波田小学校を湖西中学校の位置へ統合し、湖西中学校は岡崎中学校へ統合します。



(2) 再編スケジュール

最短で令和10年度に湖西中学校を岡崎中学校に統合するとともに、東小学校と知波田小学校を湖西中学校の位置へ統合します。湖西中学校を岡崎中学校へ統合するにあたり、岡崎中学校の校舎の改修と自転車置場の新設など、改修工事を行います。東小学校と知波田小学校を湖西中学校の位置へ統合するにあたり、湖西中学校の建物を改修工事によって活用します。工事期間の間、湖西中学校運営のために、仮設校舎を建設します。再編までの期間は、統合に向けた交流事業を実施します。なお小学校については、岡崎中学校への入学を見据え、再編後も交流事業を実施します。

表：A案の再編スケジュール案

		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
再編計画策定		→								
再編計画決定			●							
小学校 (湖西中学校の改修)	仮設校舎工事				→					
	仮設校舎での授業					→				
	学校間交流事業			→	→	→				
	改修設計・工事			→	→	→				
	学校統合						→	→	→	→
中学校 (岡崎中学校の改修)	学校間交流事業			→	→	→	→	→	→	→
	改修設計・工事			→	→	→				
	学校統合						→	→	→	→

(3) 児童生徒数・学級数

現在※の児童生徒数と未就学児数をもとに学校再編時の児童生徒数を推計します。
 中学校については令和 18 年度の生徒数と学級数を推計します。

※令和 6 年 5 月 1 日時点

①再編後の小学校児童数

学校再編実施予定の令和 10 年度の東小学校と知波田小学校を統合した小学校の児童数は以下の通りです。児童数の 1 学年平均は 33 人で 4～6 年は 2 学級となり、クラス替えができる規模となりますが、1～3 年は 1 学級となり、クラス替えができません。この児童数の推移からみると、将来的には全学年で 1 学級となり、クラス替えができなくなると考えられます。

表：A 案による小学校児童数の推計

(単位：人)

令和 10 年度	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計	1 学年平均
東小学校区	16	15	13	16	22	21	103	－
知波田小学校区	13	15	7	23	26	16	100	－
児童数	29	30	20	39	48	37	203	33
学級数	1	1	1	2	2	2	9	－

②再編後の中学校生徒数

学校再編実施予定の令和 10 年度の湖西中学校を統合した岡崎中学校の生徒数は以下の通りです。生徒数の 1 学年平均は 175 人であり、全学年でクラス替えができる規模となります。また、令和 18 年度の岡崎中学校の生徒数は 1 学年平均 129 人と令和 10 年度より減少しますが、全学年でクラス替えができる規模となります。この生徒数の推移からみると将来的にも全学年でクラス替えができる生徒数を確保できると考えられます。

表：A 案による中学校生徒数の推計

(単位：人)

令和 10 年度	1 年	2 年	3 年	計	1 学年平均
北部地区	48	50	47	145	－
岡崎地区	139	126	116	381	－
生徒数	187	176	163	526	175
学級数	6	6	5	17	－



(単位：人)

令和 18 年度	1 年	2 年	3 年	計	1 学年平均
北部地区	24	25	29	78	－
岡崎地区	98	109	104	311	－
生徒数	122	134	133	389	129
学級数	4	4	4	12	－

（４）再編による効果・影響

A案によって学校再編を行った場合の主な効果や影響は以下の通りです。

- ・ 小学校では将来的に1学年1学級となり、クラス替えができなくなる。
（本市における小規模学校の望ましい教育環境を満たすことが児童数と学級数の両面で実現できなくなる。）
- ・ 中学校では、クラス替え可能な人数が確保できる。
- ・ 小学校が北部地区に残ることで、地域とのつながりを確保することができる。
- ・ 中学校ではクラス替えができる人数となるため、多様な考えに触れることができる。
- ・ 中学校において一定の生徒数が確保できるため、部活動の選択肢が多くなる。

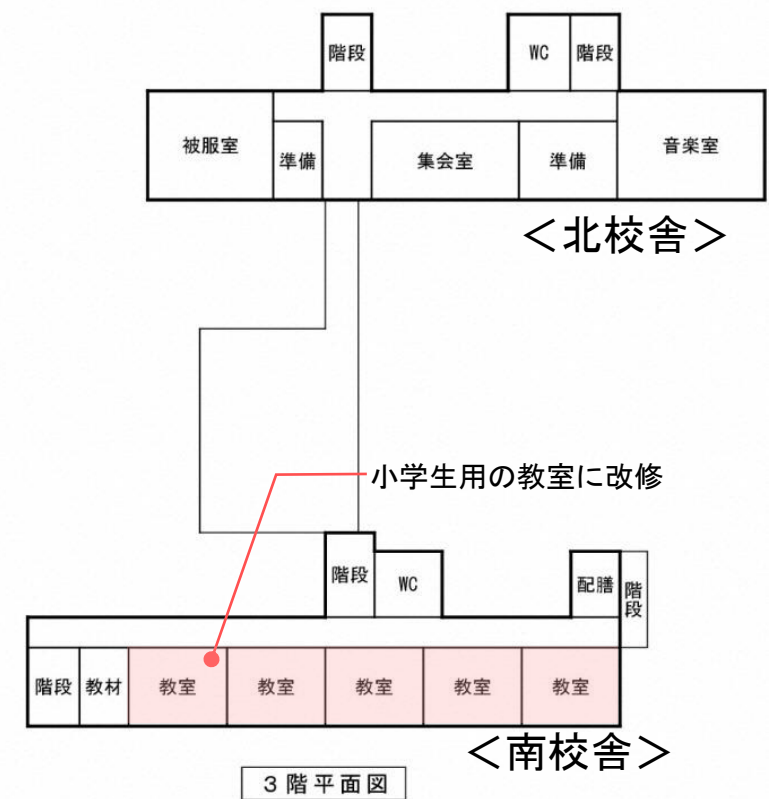
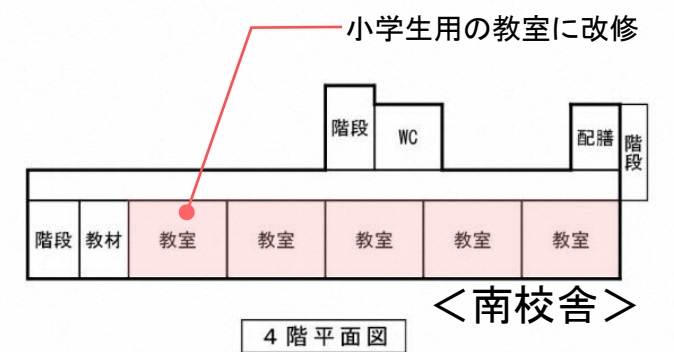
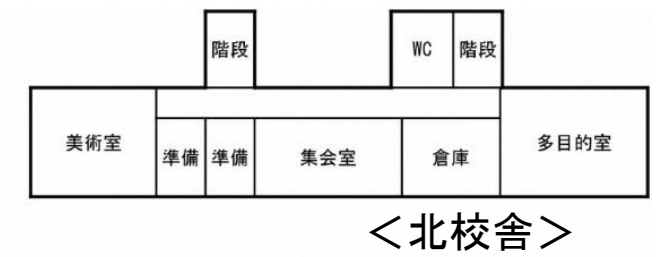
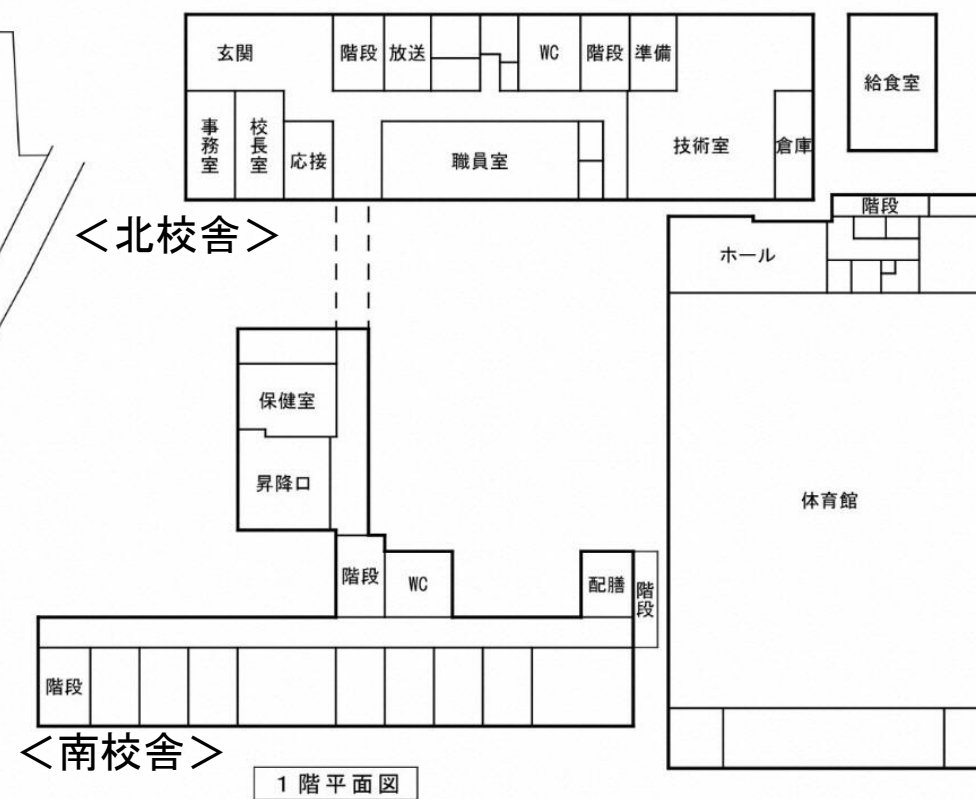
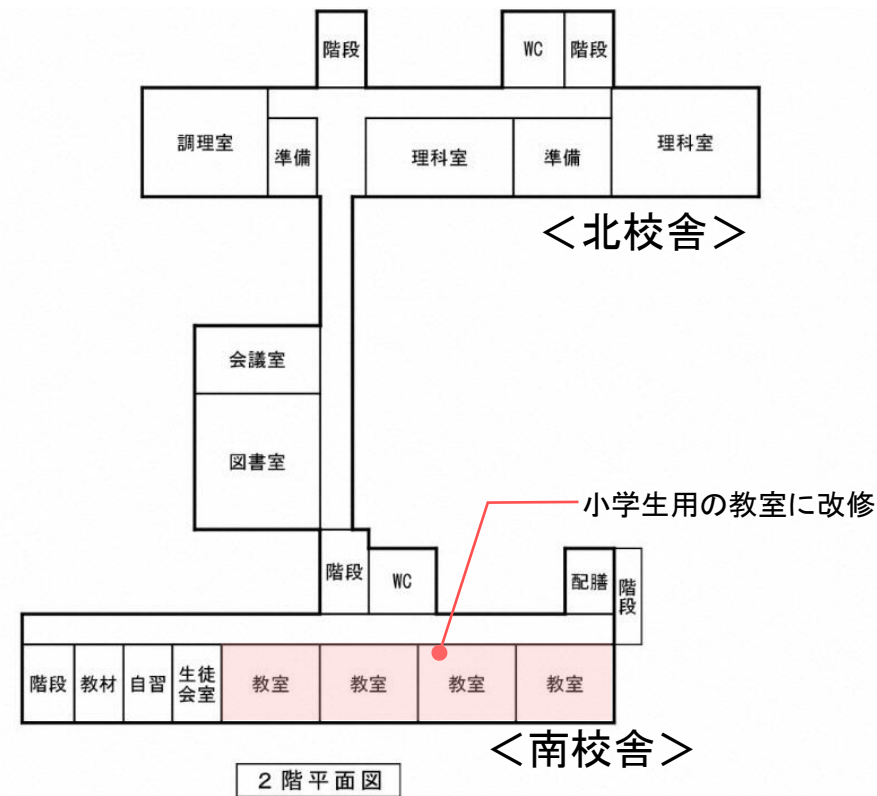
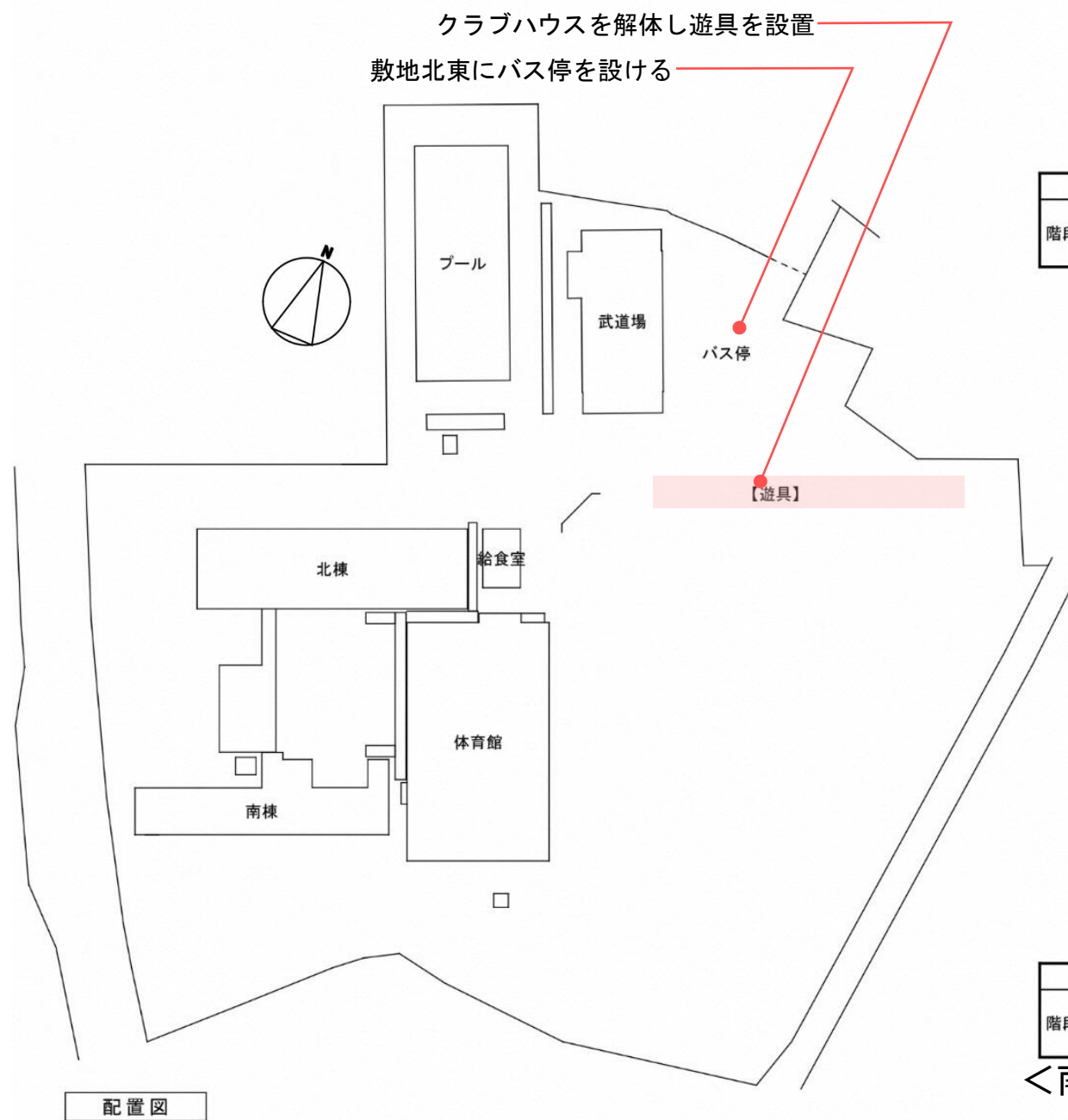
(5) 校舎配置案

①小学校（湖西中学校を改修）

A案の東小学校と知波田小学校を湖西中学校の施設を活用して統合する場合に必要な改修内容を以下に記します。また、この改修内容にもとづく校舎配置図をあわせて示します。

<主な改修内容>

- ・小学生用の教室に改修
- ・小学生の遊具を設置
- ・バス停を設置
- ・敷地内に学童施設を設置

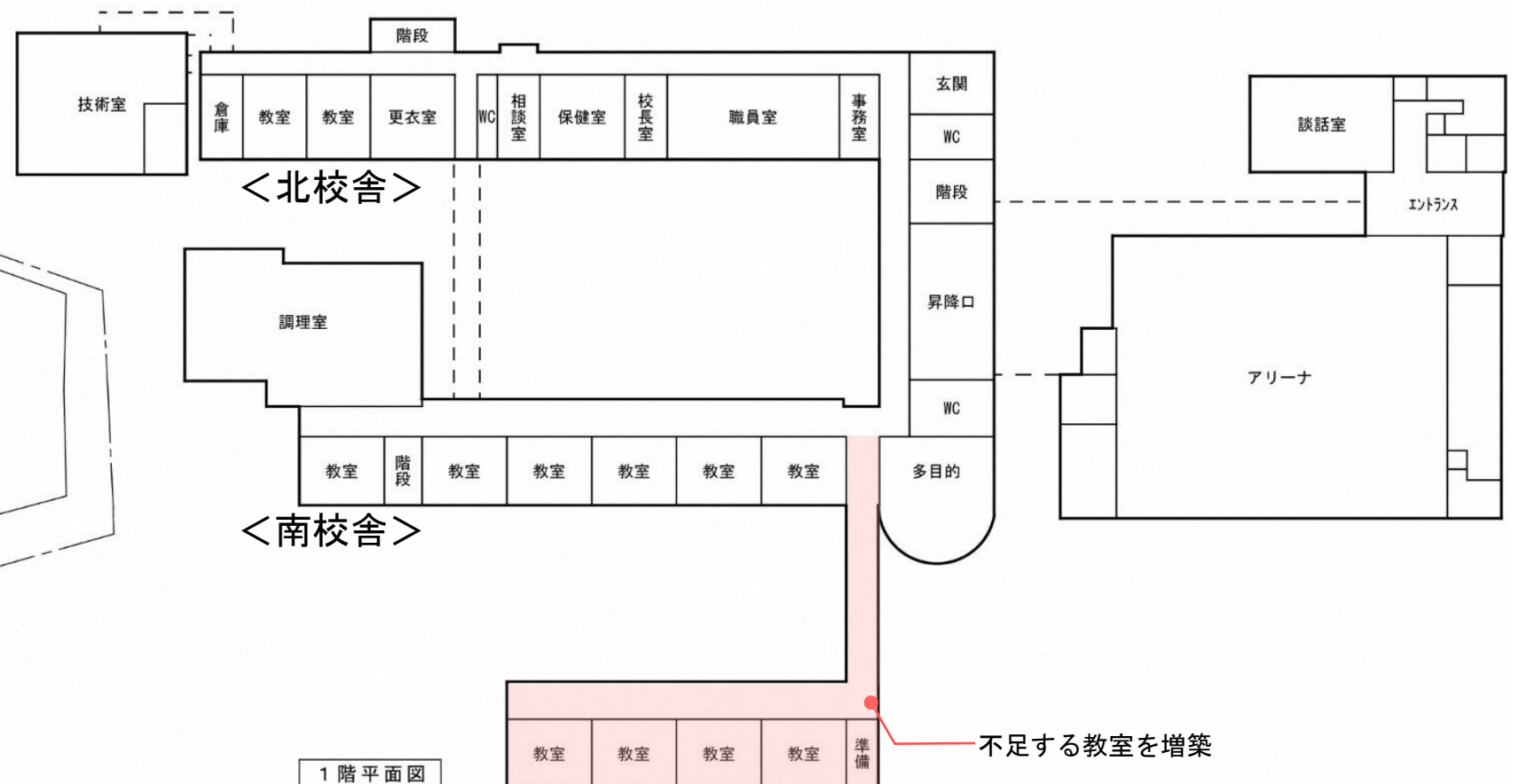
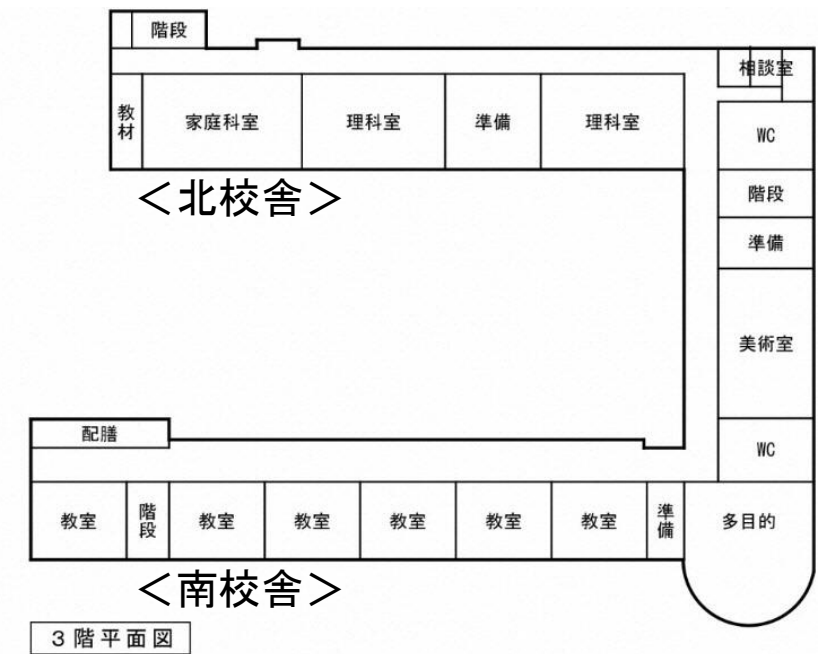
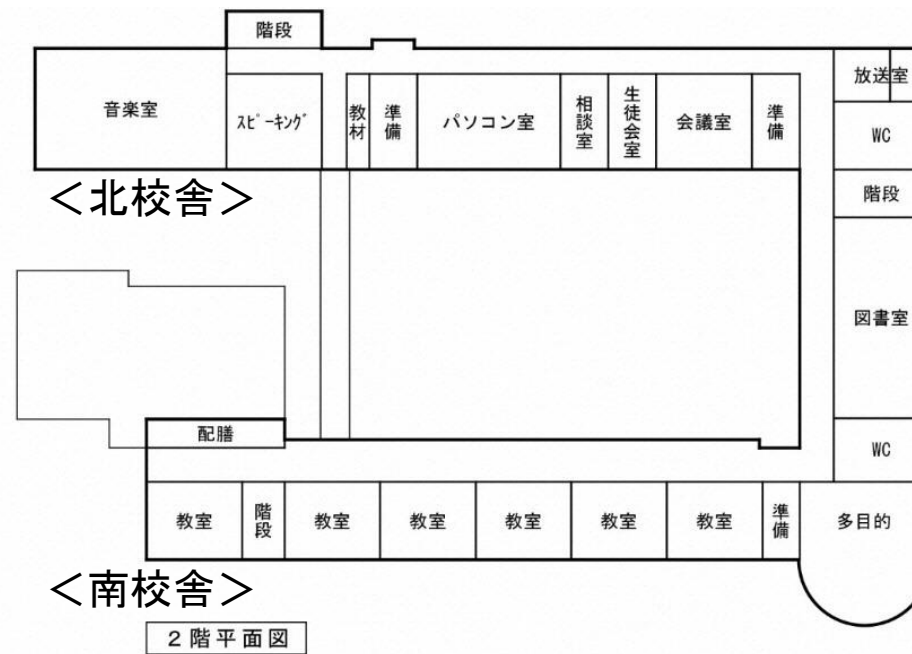
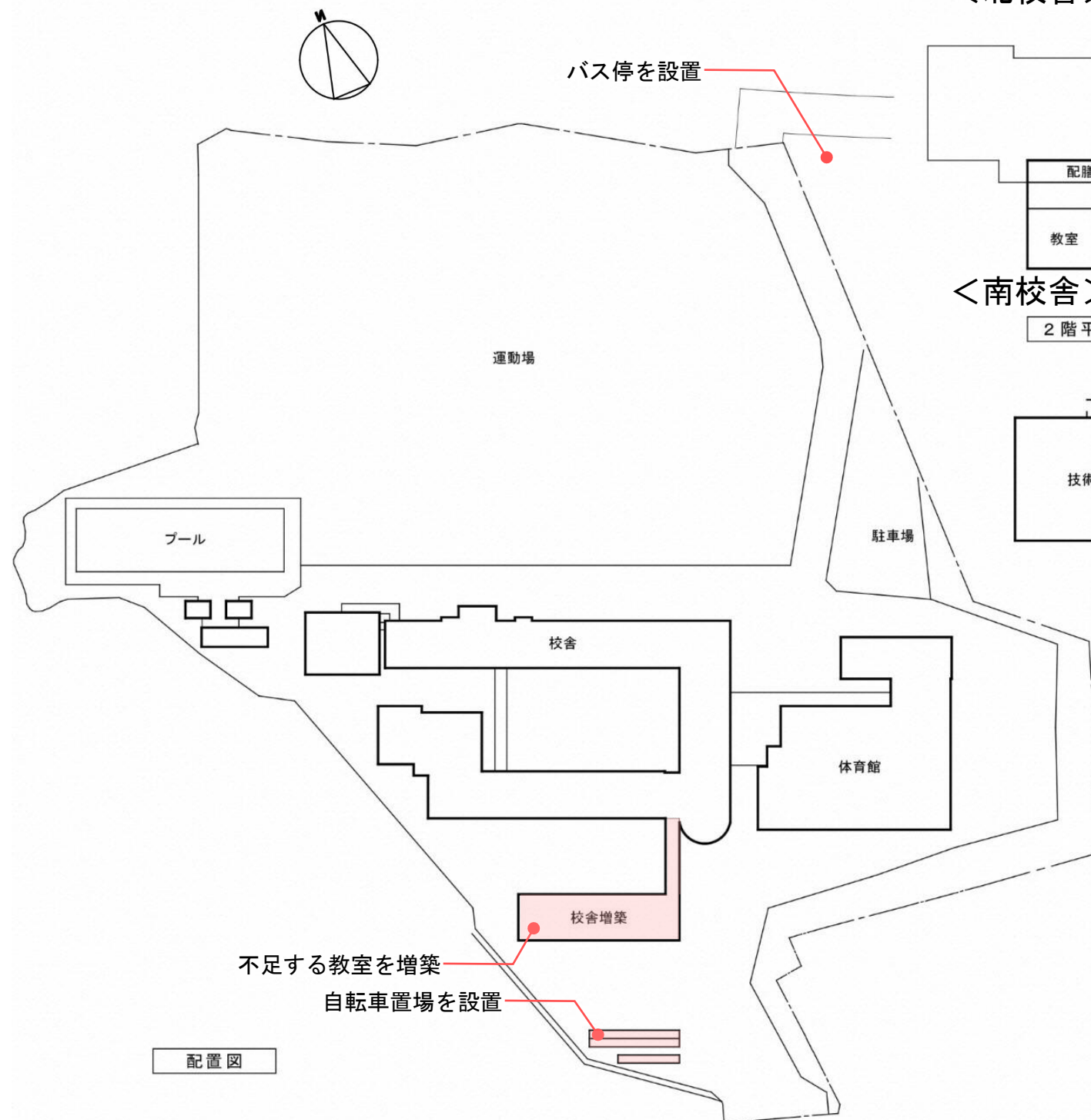


②中学校（岡崎中学校に統合）

A案の湖西中学校を岡崎中学校へ統合する場合に必要な改修内容を以下に記します。また、この改修内容にもとづく校舎配置図をあわせて示します。

＜主な改修内容＞

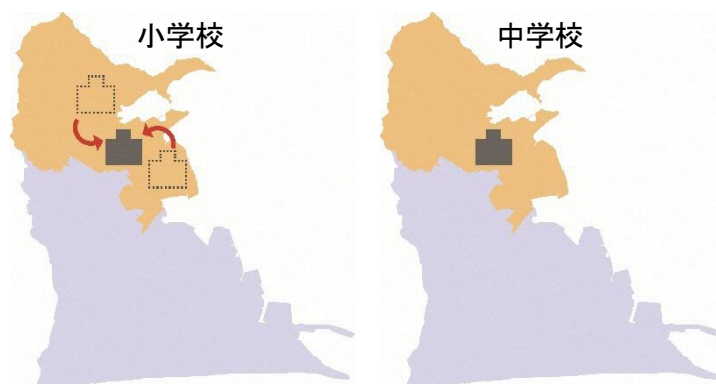
- ・不足する教室を補うための校舎を増築
- ・北部地区の自転車通学をする生徒用に自転車置場を設置
- ・バス停を設置



2. B案の検討 ～ 小中一体型 ～

(1) 再編の概要

東小学校と知波田小学校を湖西中学校の位置へ統合し、湖西中学校と小中一体型の学校とします。



(2) 再編スケジュール

令和8年度に湖西中学校の改修工事を開始し、最短で令和10年度に東小学校と知波田小学校を湖西中学校へ統合した小中一体型の学校を開校します。湖西中学校を小中一体型の学校とするにあたり、増築を含む改修工事を行います。工事期間の間、湖西中学校の運営のために、仮設校舎を建設します。なお、小中一体型の学校開校までの期間は、東小学校と知波田小学校で統合に向けた交流事業を実施するとともに、開校に向けて湖西中学校、東小学校、知波田小学校で開校準備を行います。

表：B案の再編スケジュール案

		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
再編計画策定		→								
再編計画決定			●							
中学校	仮設校舎工事				→					
	仮設校舎での授業				→	→				
小学校	学校間交流事業			→	→	→				
小中一体型の学校	改修設計			→	→					
	工事				→	→				
	開校準備			→	→	→				
	学校統合						→	→	→	→

(3) 児童生徒数・学級数

現在※の児童生徒数と未就学児数をもとに学校再編時の児童生徒数を推計します。

中学校については令和 18 年度の生徒数と学級数を推計します。

※令和 6 年 5 月 1 日時点

①再編後の小学校児童数

学校再編実施予定の令和 10 年度の東小学校と知波田小学校を統合した小学校の児童数は以下の通りです。児童数の 1 学年平均は 33 人で、4～6 年は 2 学級となりクラス替えができる規模となりますが、1～3 年は 1 学級となりクラス替えができません。この児童数の推移からみると、将来的には全学年で 1 学級となり、クラス替えができなくなると考えられます。

表：B 案による小学校児童数の推計

(単位：人)

令和 10 年度	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計	1 学年平均
東小学校区	16	15	13	16	22	21	103	－
知波田小学校区	13	15	7	23	26	16	100	－
児童数	29	30	20	39	48	37	203	33
学級数	1	1	1	2	2	2	9	－

②再編後の中学校生徒数

学校再編実施予定の令和 10 年度の中学校の生徒数は以下の通りです。生徒数の 1 学年平均は 48 人であり、全学年でクラス替えができる規模となります。また、令和 18 年度の岡崎中学校の生徒数は、1 学年平均 26 人と令和 10 年度より減少し全学年でクラス替えができない規模となります。

表：B 案による中学校生徒数の推計

(単位：人)

令和 10 年度	1 年	2 年	3 年	計	1 学年平均
東小学校区	18	31	21	70	－
知波田小学校区	30	19	26	75	－
生徒数	48	50	47	145	48
学級数	2	2	2	6	－



(単位：人)

令和 18 年度	1 年	2 年	3 年	計	1 学年平均
東小学校区	18	15	16	49	－
知波田小学校区	6	10	13	29	－
生徒数	24	25	29	78	26
学級数	1	1	1	3	－

（４）再編による効果・影響

B 案によって学校再編を行った場合の主な効果や影響は以下の通りです。

- ・ 小学校、中学校共に将来的に 1 学年 1 学級となり、クラス替えが出来ない規模となる。（本市における小規模学校の望ましい教育環境を満たすことを児童生徒数と学級数の両面で実現できなくなる。）
- ・ 小中学校が北部地区に残ることで、地域とのつながりを保つことができる。
- ・ 小中一体型の学校とすることで、新たな環境に円滑に馴染めない“中一ギャップ”現象の緩和や、9 年間の系統的な教育が可能となる。
- ・ 生徒数が少ないため、部活動の選択肢は少ない。

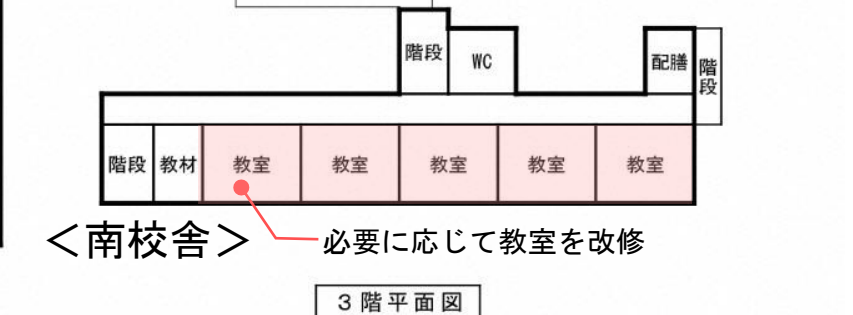
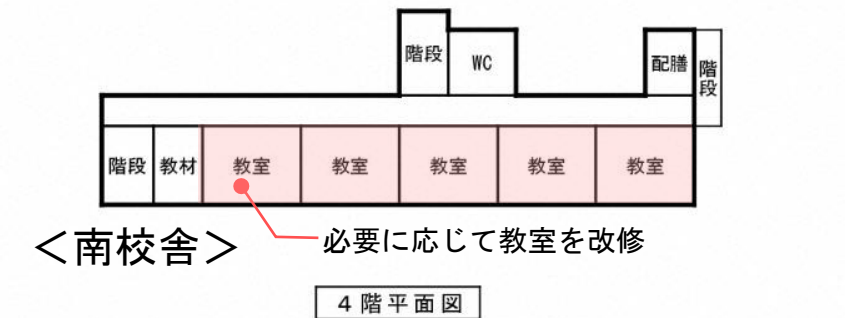
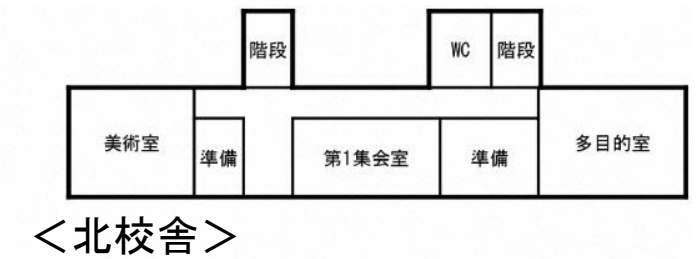
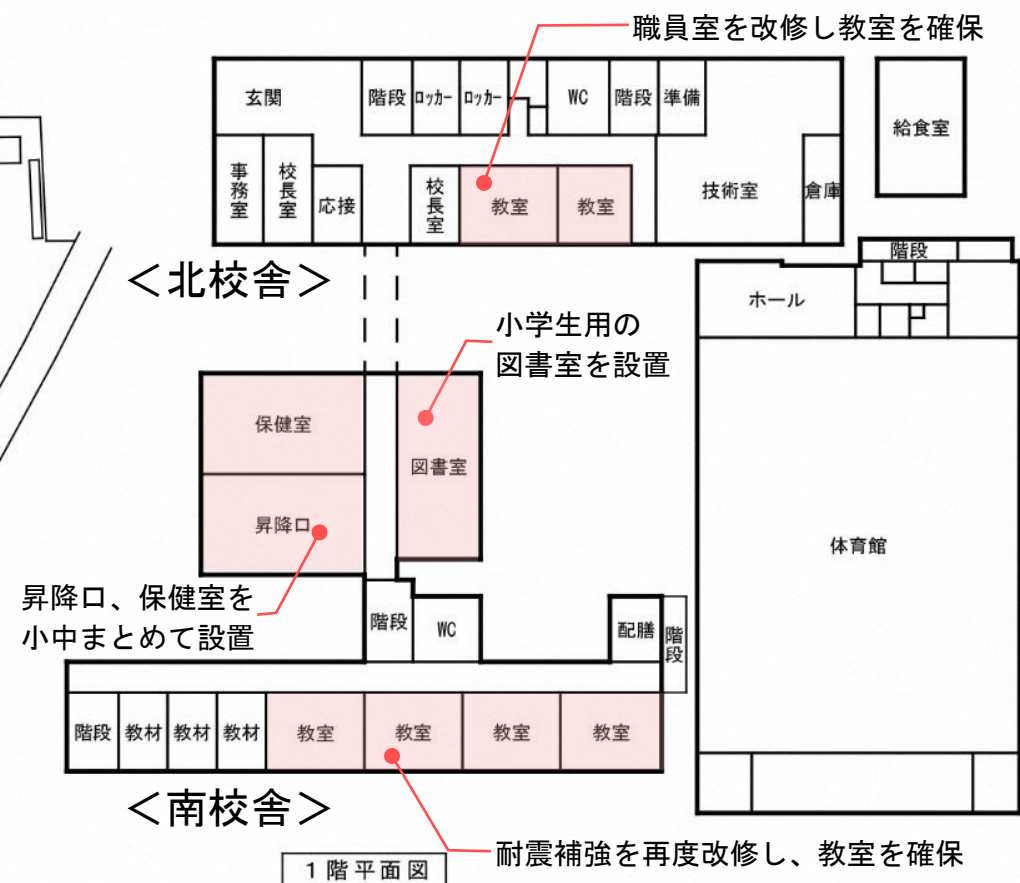
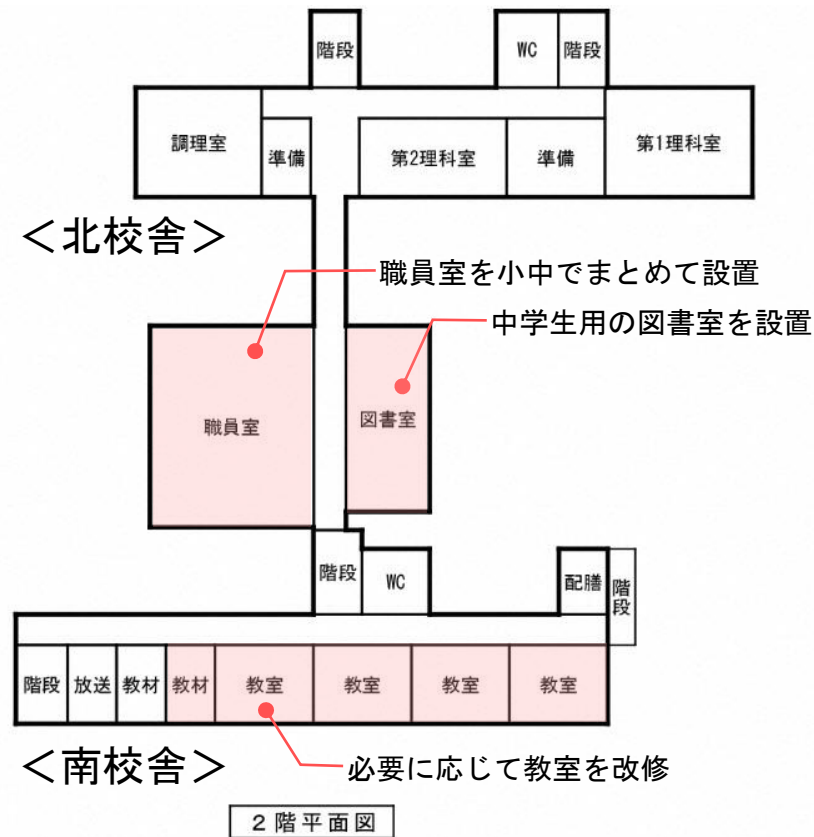
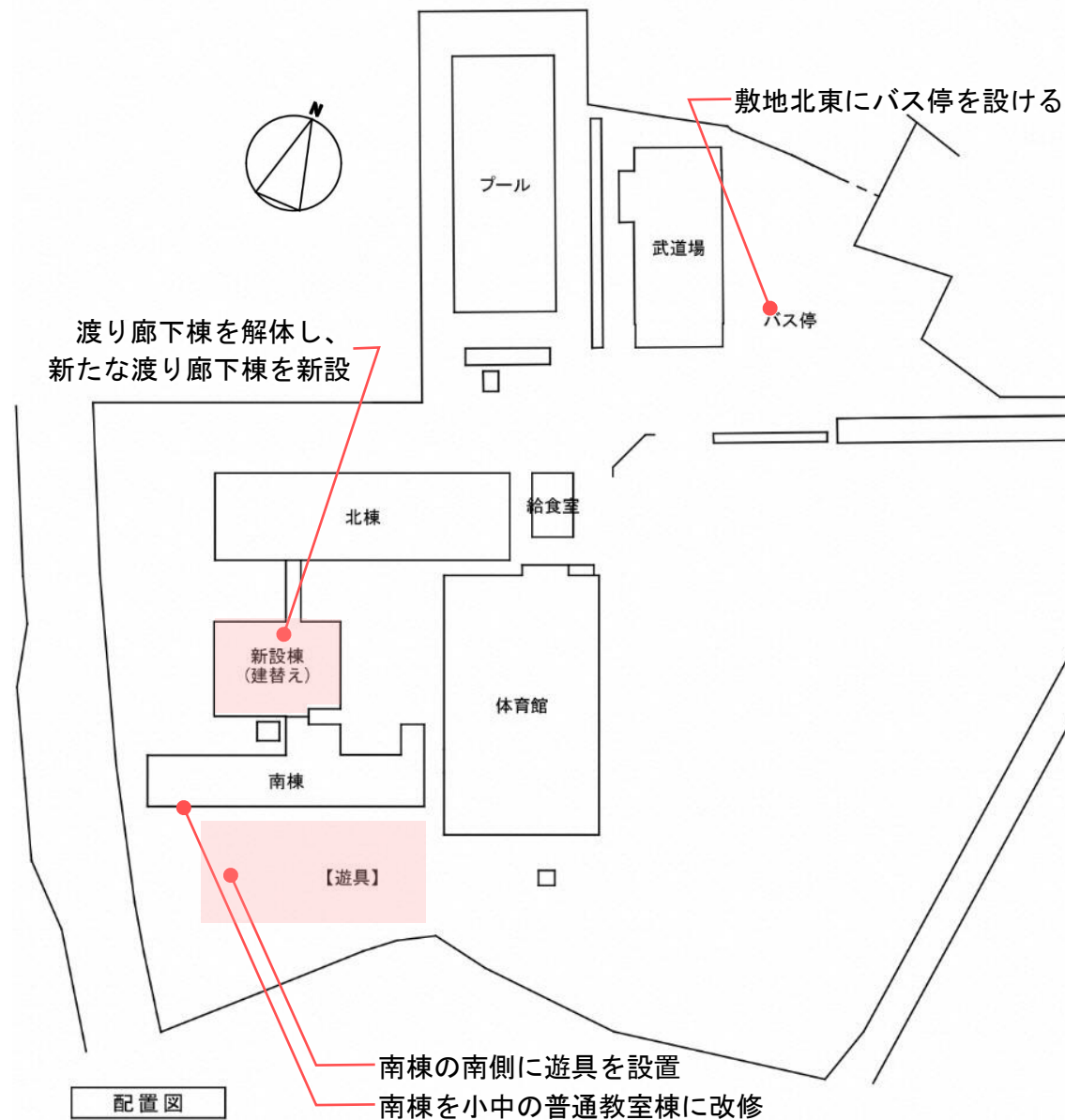
(5) 校舎配置案

①小中一体型の学校（湖西中学校を改修）

B案の東小学校と知波田小学校を湖西中学校の位置へ統合し、湖西中学校と小中一体型の学校とする場合に必要な改修内容を以下に記します。また、この改修内容にもとづく校舎配置図をあわせて示します。

<主な改修内容>

- ・小学生の遊具を設置
- ・小中一体型の学校となるよう教室を改修（南校舎に小学校の教室と中学校の教室を設置）
- ・バス停を設置
- ・敷地内に学童施設を設置



第4章 アンケート調査

1. 調査実施概要

学校再編に関する意向調査として、北部地区の子育て世代を対象としたアンケート調査を実施しました。調査概要は以下の通りです。

調査対象	: 令和6年度時点で北部地区にお住まいで、0歳児から小学校6年生までのお子様のいる世帯（対象：284世帯）
期間	: 令和6年7月10日(水)～8月4日(日)
調査方法	: アンケート調査依頼文、調査票、関連資料（「再編スケジュール」、「児童生徒数」、「再編による効果・影響」、「校舎配置図」を示した資料）を郵送及び学校での配布を行い、回答はWEBでの回答（回答は各世帯1回答とし、お子様と相談し回答していただくよう依頼文に記載をしました。）

主な調査項目：望ましいと考える再編案（次の再編案から一つを選択）

A案	東小学校と知波田小学校を統合し、湖西中学校は岡崎中学校に統合
B案	小中一体型（東小学校・知波田小学校・湖西中学校）の学校
代替案	A案、B案以外の再編案 【代替案の例】 ・「東小学校・知波田小学校を岡崎小学校に統合（中学校は岡崎中学校）」 ・「東小学校は鷺津小学校に統合（中学校は鷺津中学校）、知波田小学校は岡崎小学校に統合（中学校は岡崎中学校）」など

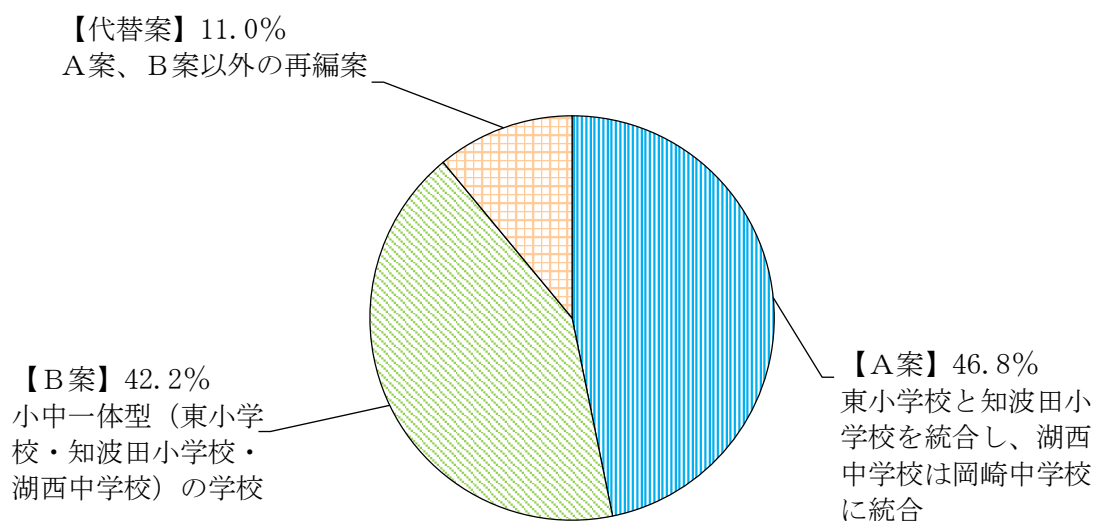
2. アンケート調査結果

①回答率

今回のアンケート調査の回答率は、76.8%（218／284 世帯）です。

②望ましいと考える再編案

北部地区の子育て世帯が望ましいと考える再編案は以下の通りです。最も多い回答はA案が 46.8%（102 人）、次いでB案が 42.2%（92 人）、代替案は 11.0%（24 人）でした。

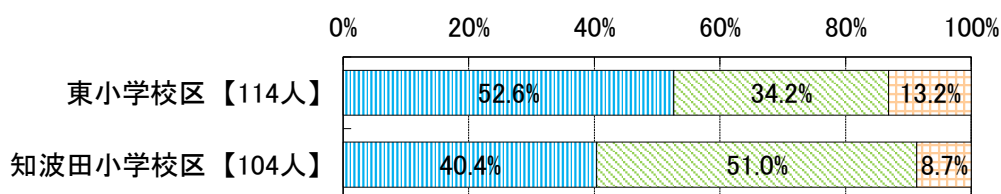


代替案の内訳は次の通りでした。「東小学校と知波田小学校が岡崎小学校へ統合（中学校は岡崎中学校へ）」という案を希望したのは5人、「東小学校は鷺津小学校へ、知波田小学校は岡崎小学校へ統合」という案を希望したのは5人、「小学校大規模校へ統合（前述の2案のどちらでも）」を希望したのは2人、「小学校は東小学校と知波田小学校を統合し、中学校は岡崎中学校と鷺津中学校を選択制」という案を希望したのは2人、「現状維持」を希望したのは6人、その他を希望したのは4人でした。

表：代替案の内訳

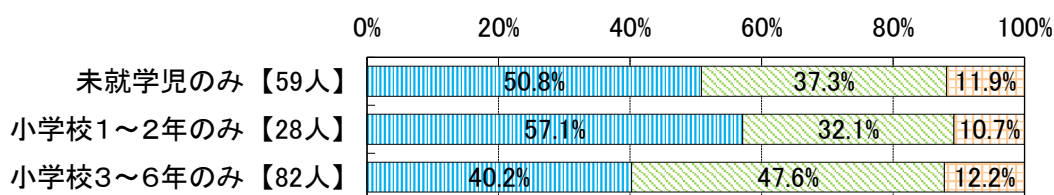
小学校から大規模校へ			小学校：東小学校・知波田小学校統合	現状維持	その他
岡崎小学校	東小学校 →鷺津小学校 知波田小学校 →岡崎小学校	どちらでも	中学校：「岡崎中学校」 or 「鷺津中学校」 (選択制)		
5人	5人	2人	2人	6人	4人

望ましいと考える再編案に対する回答を小学校区ごとにみると、以下の通りとなります。東小学校区の保護者の回答はA案が 52.6%、B案が 34.2%、知波田小学校区の保護者の回答はA案が 40.4%、B案が 51.0%でした。



- 【A案】: 東小学校と知波田小学校を統合し、湖西中学校は岡崎中学校に統合
- 【B案】: 小中一体型(東小学校・知波田小学校・湖西中学校)の学校
- 【代替案】: A案、B案以外の再編案

また、望ましいと考える再編案に対する回答を子どもの年代ごとにみると、以下の通りとなります。



- 【A案】: 東小学校と知波田小学校を統合し、湖西中学校は岡崎中学校に統合
- 【B案】: 小中一体型(東小学校・知波田小学校・湖西中学校)の学校
- 【代替案】: A案、B案以外の再編案

③再編案を選択した理由

望ましいと考える再編案を選択した理由のうち主なものは以下の通りです。

表：「望ましいと考える再編案」の選択理由（抜粋）

【A案】岡崎中学校に統合	【B案】小中一体型
・多くの人と関わることができ、活動の幅が広がる ・部活動の選択肢が多い ・クラス替えが可能 ・B案は再度再編が必要になる	・通学距離が短い ・A案は通学路の安全面に不安 ・小規模校、少人数の方がよい ・A案は途中での学校変更に不安

④学校再編に対する意見

今回のアンケート調査に記載された学校再編に対する意見のうち主なものは以下の通りです。

表：学校再編に対する主なご意見

主な意見（複数の意見を集約）
・早く進めてほしい ・安全な通学路を整備してほしい ・スクールバスについて（対象者、時間、乗降場所を知りたいなど）
その他意見（一部抜粋）
・受験時の生徒に対する配慮、精神面で不利にならないように ・子どもの負担が少ないように、どちらの再編案になっても子どものメンタルケアをしっかり行ってほしい

第5章 バス通学に関する検討

1. バス通学・自転車通学対象児童生徒数の算出

各再編案のバス通学・自転車通学対象児童生徒数について検討します。本市においては、現状3kmを超える場合にコーちゃんバスを利用している児童がいることから、再編案の比較検討のために、「小学校は3km以上の場合をバス通学」、「中学校は6km以上の場合をバス通学」、「中学校は2km以上の場合を自転車通学」として対象となる児童生徒数を算出します。

なお、バス通学及び自転車通学対象児童生徒については、「北部地区小中学校統合準備委員会（仮称）」でより詳細に検討していきます。

表：バス通学及び自転車通学対象児童生徒数

再編案	小学校	中学校	
	バス通学	バス通学	自転車通学
A案 岡崎中学校に統合	22人	10人	130人（現状より増える）
B案 小中一体型	22人	0人	102人（現状のまま）

A案とB案は前述の通り小学校についてはどちらも現在の湖西中学校の位置へ統合するため、小学校のバス対象児童数は同じ22人となります。B案は中学校の位置自体は現状と変わらないため、中学校のバス通学対象生徒は0人、自転車通学対象生徒数についても現状とあまり変わらない人数となります。一方、A案はB案より通学距離が長くなる地区が多いため、バス対象生徒数が10人、自転車通学対象生徒数が130人とB案より多い人数、現状より増えることとなります。

2. バス通学にかかる概算費用の試算

仮に、上記の通り算出したバス通学対象児童生徒数より、必要となるバス通学にかかる委託費用を参考事例より算出します。バス通学にかかる費用については、A案が中学生10人分上乗せされますが大差ないと考え、概算費用はA案、B案ともに年間で約4000万円と試算しました。

表：バス通学にかかる費用

再編案	概算費用
A案 岡崎中学校に統合	約4,000万円/年
B案 小中一体型	

第6章 概算工事費の検討

各再編案の改修にかかる費用について以下に記します。現段階では詳細な工事内容が確定していないため概算となりますが、近年の工事費を参照しA案、B案それぞれの概算工事費を試算します。

改修にかかる費用は、B案の方が小学校と中学校を現在の湖西中学校を改修して統合するため不足する教室や2校分の職員室などを確保するため工事の規模が大きくなるため、工事費も高くなります。

表：校舎改修にかかる概算費用

	主な改修内容		概算工事費
【A案】	再編後の小学校 (湖西中学校の改修)	・小学生用の教室に改修 ・小学生用遊具の設置 ・バス停の設置 ・学童施設の設置	約 14 億円
	岡崎中学校	・不足する教室を補うための校舎を増築 ・自転車置場の設置 ・バス停の設置	
【B案】	小中一体型 (湖西中学校の改修)	・小学生用の教室に改修 ・小学生用遊具の設置 ・バス停の設置 ・学童施設の設置 ・中学生用、小学生用それぞれの教室を確保するための改修 ・小学生用図書室の設置 ・中学生用図書室の改修（設置場所変更） ・職員室（小中）の改修（設置場所変更）	約 23 億円

※改修図面は P14（再編後の小学校）、P15（岡崎中学校）、P19（小中一体型）を参照

第7章 再編案の評価

1. 再編案の評価

これまでの検討より再編案の評価として、A案とB案を比較検討します。小学校は東小学校と知波田小学校を湖西中学校の位置に統合する点は同条件となるため、これまで検討した内容のうち主に中学校に関する項目を比較します。

表：A案とB案の中学校に関する比較

再編パターン		A案	B案	参照箇所
		東小学校と知波田小学校が統合 湖西中学校は岡崎中学校に統合	小中一体型	
教育環境	生徒数 (令和18年時点の想定)	1学年平均：129人	1学年平均：26人	P.12 P.17
	学級数 (令和18年時点の想定)	全学年 4学級	全学年 1学級	
	クラス替え	可能 ○	将来的に不可 △	
アンケート調査結果		46.8% ○	42.2% △	P.20
概算工事費		約14億円 ○	約23億円 △	P.25
通学	バス通学対象人数	小22人/中10人	小22人	P.24
	自転車通学対象人数	増える(130人)	現状のまま(102人)	

また、適正化検討委員会報告書にて示された、中学校における望ましい教育環境について再掲します（P.2～3参照）。

表：本市における小規模中学校の望ましい教育環境

教育環境	理由（抜粋）
【1学年の生徒数】 <u>30人以上</u>	・切磋琢磨しながら学校生活を送り、心身を大きく成長させることができる。 ・人間関係に問題が生じた場合でも、新たな人間関係を築きやすい。
【1学年の学級数】 <u>2学級以上、</u> <u>できれば3学級</u>	・人間関係に大きな問題が生じた場合には、子どもにも、保護者にも居場所がなくなってしまう可能性が高い。 ・学級ごとに競い合う学校行事を通して、協力することの大切さを学ぶことができる。

2. 望ましいと考える再編案

子どもたちにとってよりよい教育環境を充実させるという考え方にに基づき、次の①から④までの観点から市として最も望ましいと考える再編案を「A案」とし、北部地区の学校再編を進めます。

＜北部地区の再編案＞	
A案	小学校：東小学校と知波田小学校を統合（湖西中学校の校舎を改修して使用）
	中学校：岡崎中学校に統合

①教育環境

A案は中学校を岡崎中学校へ統合するため、中学校では将来的にもクラス替えが可能となる生徒数が確保できますが、B案では中学校の統合は行わないため将来的にクラス替えができなくなると予測されます。「適正化検討委員会報告書」にて示された、中学校における望ましい教育環境を考慮すると、A案の方が望ましい再編案と言えます。

②アンケート調査結果

子育て世代を対象としたアンケート調査では、僅差ではあるもののA案を支持する意見が多いという結果となりました。A案を支持する声としては、「B案の小中一体型ではグラウンドが狭い」、「多くの価値観にふれて自分を形成していくなど、中学生にとって大事にしないといけないことを考えるとA案が望ましい」、「中学生が人間関係や社会性を身につけるためにはA案が望ましい」、「中学3年間でできるだけ多い人数の中で経験した方が良い」などがありました。

③学校施設

学校施設については、B案よりA案の方が改修箇所が少ないことから、工事期間が短く、湖西中学校の在校生の負担を軽減できると考えます。また、小学生の視点では、B案よりA案の方が校舎はもちろんのこと、体育館やグラウンドについても余裕を持って使用することができ、子どもたちにとっての教育環境の充実にもつながると考えます。そのほか、空き教室を地域住民との交流の場として有効活用することも考えられます。

④通学方法

通学の視点では、A案は中学校を岡崎中学校へ統合するため、北部地区の中学生にとっては現状より通学距離が遠くなる生徒が増えること、なかにはバス通学が必要となる生徒もいます。子育て世代を対象としたアンケートでB案を選択した方の多くが通学距離を理由としていました。通学距離だけで見るとB案の方が生徒の負担が小さいと言えますが、スクールバスの導入や安全な通学路の整備などを行うことにより生徒の負担を減らすことができると考えます。

3. 再編時期

下記表の再編スケジュール案により令和10年度からの開校を目指し、遅滞なく準備を進めていきます。

なお、仮設校舎の設置については、湖西中学校の設計業務を行う中で検討していきます。

表：再編スケジュール案

		R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
再編計画策定		●							
小学校 【湖西中学校の改修】	改修設計・工事		→						
	(仮設校舎工事)		→						
	(仮設校舎での授業)		→						
	学校統合					→			
中学校 【岡崎中学校の改修】	改修設計・工事		→						
	学校統合					→			
学校間交流事業	東小・知波田小		→						
	湖西中・岡崎中		→						
	北部地区の小学校・ 岡崎小学校		→						

4. 今後の検討事項

再編検討委員会、アンケート調査及び保護者や地域住民との意見交換会で挙げられた、学校再編に関する検討事項を整理します。次年度に設置する「北部地区小中学校統合準備委員会（仮称）」において、協議、検討をしてまいります。

項 目		検討事項等
①	安全安心な通学路	通学経路や安全対策について、道路管理者や警察などの関係機関と連携して通学路の安全確保を検討
②	スクールバスなどの通学手段	・スクールバスや既存のコーちゃんバスの活用も含め、最適な通学手段を検討 ・対象範囲については、通学距離だけではなく、安全安心に通えるかなども含めた検討が必要
③	交流事業の実施	ア 小学校の統合に向けた交流事業の検討 【東小学校と知波田小学校との交流】（R7～R9） 現在も5年生の宿泊体験などで交流を図っているが、それぞれの地域の特色を生かした学習を一緒に実施するなど、より一層交流事業を充実させる必要がある。 イ 岡崎中学校統合に係る交流事業の検討 【湖西中学校と岡崎中学校との交流】（R8～R9） 学年の途中で岡崎中学校に統合することになる子どもたちの環境の変化、負担を少しでも軽減させるために中学校間での交流を行う。 【東小学校、知波田小学校、岡崎小学校の交流】（R7～R9） 【再編後の小学校と岡崎小学校との交流】（R10～） 少人数の小学校から大人数の岡崎中学校へ進学することになる子どもたちの環境の変化、負担を少しでも軽減させるために両校の交流を行う。
④	再編時の児童生徒に対する配慮	・学校再編実施時に受験を控えている小学校6年生や中学3年生にかかる環境変化に対する配慮 ・再編時の中学校の制服、部活動の検討
⑤	地域との交流	・現在も東小学校、知波田小学校においては地域の方々に支えていただいているため、再編後の両地域の方々に支えていただけるような交流事業の検討が必要 ・地域の方々との交流を図るための学校内施設の整備、体制の構築

おわりに

今後は、この基本計画に基づき北部地区の学校再編を進めていきます。その目的は、「子どもたちにとってよりよい教育環境を充実させること」です。この学校再編により、仲間と共に切磋琢磨して取り組む環境が整い、北部地区の子どもたちが意欲的に学び続け、社会に出てからも積極的に物事に関わろうとする力を育てていくことができるようにしていかなければなりません。

先述した通り、学校再編に向けた検討事項は多岐にわたりますが、保護者や地域住民の皆様に丁寧な説明を行い、ご意見を伺いながら進めていくことが大切であると考えます。

また、再編に伴う学校の跡地についても、地域が活性化するような活用方法を検討してまいります。

資料編

1. 過年度報告書【抜粋】

①湖西市立学校教育施設適正化検討委員会報告書（令和4年3月）【抜粋】

5 望ましい教育環境について（p.10）

（1）単学級における児童生徒数

①小規模小学校（白須賀小、東小、知波田小）について

小学校で、全ての学年で単学級だった場合、子どもたちが健やかに成長するために必要な最低人数について、検討した結果、以下のようになりました。

【単学級の場合、子どもたちが健やかに成長するために必要な最低人数】

小学校では、20人以上は必要である。

○理由

- ・きめ細かい指導ができる点と社会性を身につける点の両面から勘案すると20人以上は必要である。学習面では、人数が少ないことで、個別に指導できる時間が増えるため、教師によるきめ細かい指導が可能となる。そのため、学習面では、少ない方が良い面がある。しかし、社会性を身につける点では、人数が少ないことで、多様な考えにふれる機会がなくなり、自分の考えと比べたり、よい行いやアイデアを取り入れたりといった経験が乏しくなってしまう。他者から学び、成長するという点で、20人は必要である。
- ・幼児期から児童期と、子どもたちは小集団から徐々に社会性を身につけて、大きな集団を形成していく。集団で活動することによって、自分と他者の相違点に気付きながら、社会に出るために必要な資質・能力を身につけていくことを考えると必要な数であるから。
- ・国の進める小学校35人学級編成では、36人で2学級になり、1学級18人となる。この人数からも20人以上が望ましい。
- ・人間関係がこじれてしまった場合には、児童にとっても、保護者にとっても、新たな人間関係を作る機会が必要である。人数が少なすぎると、人間関係の修復が難しくなってしまった場合に、逃げ道がなくなってしまうため。
- ・PTAの運営の面からも人数が少なすぎると負担が大きくなる。円滑に運営するためにも人数が必要であるため。

②小規模中学校（白須賀中、湖西中）について

中学校で、全ての学年で単学級だった場合、子どもたちが健やかに成長するために必要な最低人数について、検討した結果、以下のようになりました。

【単学級の場合、子どもたちが健やかに成長するために必要な最低人数】

中学校では、30人以上は必要である。

○理由

- ・高校では、40 人学級である。人数が少ないと高校進学時にギャップが大きくなり、適応が難しくなることを考えると、30 人以上は必要である。
- ・保健体育は、男女別で学習する。20 人だと 10 人ずつになってしまう。これだと、学習内容に制限が生じる可能性がある。学習する機会を保障するためにも 30 人は必要である。
- ・自分の夢や目標に向かって、切磋琢磨しながら学校生活を送り、心身を大きく成長させることができる時期であるので、30 人は必要である。
- ・思春期で、様々なことを思い、悩む時期である。人と関わる範囲も大きくなる時期であるので、できるだけ多くの人がいて、多様性を学ぶことが望ましいから。また、人間関係に問題が生じた場合でも、30 人はいた方が、新たな人間関係を築きやすい。

(2) 学級数 (p. 11)

小規模校では、単学級という状況が続いており、そのメリットを生かしながら、デメリットを改善するようにして、学校運営が行われており、現在の状況は、子どもたちの健やかな成長を促すことができる教育環境が維持されていると考えています。しかし、今後も、少子化が進むため、現在の教育活動を維持し、教育効果を上げていくことが難しくなっていきます。全ての学級が単学級の小規模校においては、近い将来、小学校で 20 人以上、中学校で 30 人以上を維持することが難しくなっていきます。そこで、1 学年でどれくらいの学級数が、子どもたちにとって望ましい教育環境として必要であるのかについて検討しました。その結果は以下ようになりました。

【望ましい教育環境としての学級数】

小中学校で、1 学年 2 学級以上、できれば 3 学級が必要である。

○理由

- ・単学級では、良好な関係が続けばよいが、人間関係に大きな問題が生じた場合には、子どもにも、保護者にも居場所がなくなってしまう可能性が高いため、2 学級以上が必要である。
- ・2 学級以上あることで、学級ごとに競い合う学校行事を通して、協力することの大切さを学んだり、活気のある活動によって達成感を味わい、心身の成長を促したりすることができるから。
- ・社会へ出ていく上で、コミュニケーション能力は非常に大切である。毎年、クラス替えがあることで、人と積極的にかかわり、仲間づくりをする機会があるため、コミュニケーション能力を育成することができるから。
- ・できれば 3 学級あることで、子どもの人間関係に配慮しながら、学級編成が可能であり、子どもたちも 2 学級よりも、人間関係の固定化を防ぐことができる。

- ・教員の育成という点からも、1学年で2学級以上あることで、学年運営を相談して進め、経験の浅い教職員がベテランの教職員と話し合っ、アイデアを練り、質の高い教育の実現と、教職員の資質・能力の向上につながるから。
- ・PTA活動の負担を軽減するためにも必要な学級数である。

6 望ましい教育環境に近づけるための手法について

(2) 本市における効果的な手法 (p.13)

通学区域の変更や学校の自由選択制は本市には、なじまず、統廃合や小中一貫による適正配置が効果的である。

○理由

- ・通学区域が旧の町村に基づいて設置されている。したがって通学区域を大きくしたり、小さくしたりすると行政区と通学区域の不一致が生じるため、保護者や地域の理解は、得られないと考える。また、学校選択制を導入した場合、状況によっては小規模校の子どもの数を増やすために選択制にしたのに、逆に小規模校の子どもたちが大きな学校を選択して、ますます小規模校の子どもの数が少なくなってしまうことも考えられる。まずは、統廃合を選択してくのが良い。統廃合をベースに考えていって、それで補えない場合には、色々な手法を考えるのが良い。
- ・通学区域の変更というのは、保護者、地域と学校の繋がりがあるので、保護者、地域の理解は得られにくい。学校と地域が繋がって、色々な活動を行っている。住んでいる行政区と異なる学校に通うことは、教育効果が低くなる。
- ・小中一体化や統廃合によって学校を合わせるだけでなく、本市の政策などによって人を増やしていくということも大事になってくる。両輪でやっていくことが大切である。
- ・判断する上で大事なことは、そこに通っていく子どもたち、保護者のことをまず第1に考えること。施設の老朽化を考えた時に、統廃合を計画的に進め、子どもたちが親になったときに我が子を通わせたいと思えるような学校をつくっていくことが大事である。子どもたちや、保護者がわくわくするような学校が必要である。

②湖西市立小中学校再編方針（令和５年５月）【抜粋】

５ 本市の望ましい適正配置について（p.13）

小規模校では、児童生徒数の減少が続いていくと、１学年 15 人を下回る可能性もあります。どのようなメリット・デメリットが生じるのかという点について整理しました。

【１学年 15 人前後や 10 人前後の規模になった場合のメリット】

- ・教員が、授業の中で一人一人の学習状況を把握しやすいため、その子にあったアドバイスをし、学習内容の理解につながる。
- ・係活動、委員会活動、運動会などで、一人一人が役割を自覚して、行動し、達成感を味わうことで、責任をもって取り組むことの大切さやありのままの自分を肯定する感覚が育まれる。
- ・人数が少ないことで、お互いの性格や長所、短所を理解しやすく、お互いを認め合い、思いやりながら、穏やかな雰囲気の中で学校生活を送ることができる。

【１学年 15 人前後や 10 人前後の規模になった場合のデメリット】

- ・人間関係が固定化し、級友に対する見方・考え方が固定化してしまったり、集団での関わり方が決まってしまうりする可能性が高くなる。
- ・切磋琢磨して自分を成長させていこうとする意欲が醸成されにくい。
- ・体育のゲームやボール運動で、集団対集団での競い合いや攻防の中で、動きや作戦を工夫する上で制約が生じる。
- ・授業では、多様な考えにふれる機会が減り、他者の考えを参考にして、自分の考えを見直し、まとめ直す経験が少なくなる。
- ・同級生の良い考えや見本となる発表にふれて、刺激を受け、自分もやってみたい、できるようになりたいと思う機会が減る。
- ・中学生は、心身の発達上の変化が著しく、また、生徒の能力・適性、興味・関心等の多様化が一層進展する時期であり、自我意識が高まるとともに個性が多様化してくる時期でもある。抽象的、論理的思考が発達するとともに社会性なども発達してくる。その時期に少人数で学校生活を送ることで、多様な考え方から己を成長させていく機会が不十分になる可能性がある。

これらのメリット・デメリットを勘案すると、将来的に１学級 15 人以下となった場合、デメリットの方が大きくなるのではないかと考えます。

７ これからの東小学校、知波田小学校、湖西中学校について

（２）児童生徒数の推移について（p.20）

東小学校、知波田小学校の児童数の推移を整理すると、平成 25 年度には、１学年 35 人前後だった規模が、平成 30 年度には、30 人前後、令和 4 年度に 25 人前後にな

っています。今後も、減少が続いていくことが予想されています。令和8年度には知波田小学校の入学生が10人を下回ることが予想されています。令和11年度には、1学年15人前後に、近い将来には10人前後になっていく可能性もあります。

東小	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1学年平均
H25	38	40	28	42	33	39	220	36.7
H26	32	39	40	27	41	33	212	35.3
H27	33	33	39	42	27	41	215	35.8
H28	28	33	32	39	42	27	201	33.5
H29	27	27	35	32	38	43	202	33.7
H30	28	26	28	34	29	39	184	30.7
R 1	28	28	27	28	34	29	174	29.0
R 2	22	29	27	27	28	34	167	27.8
R 3	30	19	29	25	29	27	159	26.5
R 4	18	29	20	29	25	29	150	25.0
R 5	21	18	30	20	30	25	144	24.0
R 6	22(1)	21(1)	18(1)	30(1)	20(1)	30(1)	141	23.5
R 7	16(1)	22(1)	21(1)	18(1)	30(1)	20(1)	127	21.2
R 8	14(1)	16(1)	22(1)	21(1)	18(1)	30(1)	121	20.2
R 9	16(1)	14(1)	16(1)	22(1)	21(1)	18(1)	107	17.8
R 10	16(1)	16(1)	14(1)	16(1)	22(1)	21(1)	105	17.5
R 11	14(1)	16(1)	16(1)	14(1)	16(1)	22(1)	98	16.3

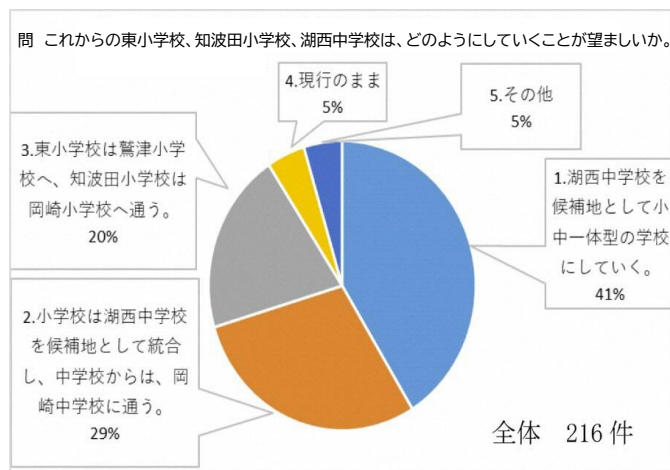
知波田小	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1学年平均
H25	19	31	38	35	33	36	192	32.0
H26	35	20	33	41	35	32	196	32.7
H27	18	35	19	33	40	35	180	30.0
H28	33	18	35	19	34	40	179	29.8
H29	29	33	17	35	19	34	167	27.8
H30	21	28	32	16	35	19	151	25.2
R 1	17	20	28	33	16	36	150	25.0
R 2	26	17	20	28	32	16	139	23.2
R 3	19	26	17	19	28	32	141	23.5
R 4	30	19	26	18	19	29	141	23.5
R 5	16	29	19	26	18	20	128	21.3
R 6	25(1)	16(1)	29(1)	19(1)	26(1)	18(1)	133	22.2
R 7	23(1)	25(1)	16(1)	29(1)	19(1)	26(1)	138	23.0
R 8	7(1)	23(1)	25(1)	16(1)	29(1)	19(1)	119	19.8
R 9	15(1)	7(1)	23(1)	25(1)	16(1)	29(1)	115	19.2
R 10	14(1)	15(1)	7(1)	23(1)	25(1)	16(1)	100	16.7
R 11	10(1)	14(1)	15(1)	7(1)	23(1)	25(1)	94	15.7

(3) 子育て世代のアンケート結果について (p.21)

令和5年3月に小学校入学前、小学生のお子さんをお持ちの子育て世代の方を対象としたアンケートを実施しました。今後の方向性として選択項目として以下の4つの案を示しました。

第1案「湖西中学校を候補地として小中一体型の学校になる案」、第2案「小学校は湖西中学校を候補地として統合し、中学校からは、岡崎中学校に通う案」、第3案「東小学校は鷺津小学校へ、知波田小学校は岡崎小学校に通う案」、第4案「その他」。

216件(対象家庭373世帯)の回答があり、「これからの東小、知波田小、湖西中は、どのようにしていくことが望ましいのか」について、第1案が41%、第2案が29%、



図：令和4～5年度実施の子育て世代のアンケート

第3案が20%となりました。

（4）今後の方向性について（p.22）

アンケート結果からも、「小学校は湖西中学校を候補地として統合する」ことが、北部地区のこれからの子供たちの教育環境として最も適していると考えます。中学校について、「小中一体型にする」のか、「岡崎中学校に通う」のかは、さらに検討が必要であると考えます。

2. アンケート調査用紙

①アンケート調査依頼文

令和6年7月吉日

東小学校区にお住まいの子育て世代の皆様
知波田小学校区にお住まいの子育て世代の皆様

湖西市教育委員会

これからの小中学校（北部地区）についてのアンケート（依頼）

湖西市では、望ましい教育環境について様々な検討を行い、令和5年5月に「湖西市立小中学校再編方針」を策定しました。現在、「学校再編基本計画」の策定に向け、「湖西市立学校再編検討委員会（北部地区）」において検討しています。

今後、より適切な再編案を検討するにあたり、子育て世代のご意見を参考にしたいため、アンケートを実施いたします。別添資料をご確認の上、（お子様を含めた）ご家族でお考えいただき、ご回答ください。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

記

回答はこちらから▼

1. 実施方法 WEBにて回答

右記2次元コードまたは下記URLより、入力フォームにて回答をお願いします。 ➡ <https://logoform.jp/form/ol27/641462>

※回答は、各世帯につき1回



2. 回答期限 令和6年8月4日（日）までに回答をお願いします。

3. 再編案 ※各案の概要や校舎等の図面は別添資料をご覧ください。

A案	小学校は東小と知波田小を現在の湖西中学校を候補地として統合する。 中学校は岡崎中学校に統合する。
B案	現在の湖西中学校を候補地として小中一体型（東小・知波田小・湖西中）の学校とする。

4. 再編時期について

今後策定する「学校再編基本計画」に示します。現時点では、校舎・施設等の改修期間を考慮し、最短で令和10年度の再編を想定しています。

5. 通学方法について

通学方法（徒歩・スクールバス等）の対象・範囲・経路等については今後の「学校再編検討委員会」で検討してまいります。

6. アンケート結果について

アンケート結果は集約後、ウェブサイトなどで公表いたします。なお、今回のアンケート結果のみで「再編基本計画」を決定することはありません。

児童生徒数の推移については、裏面をご覧ください。

7. 児童生徒数の推移（R6. 5. 1 現在の児童生徒数と未就学児数による推計値）

※（ ）は学級数 1 学年 36 人以上で 2 学級にわかれます。

＜東小学校と知波田小学校を統合した場合の児童数の見込み＞

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計
R6	48 (2)	37 (2)	48 (2)	50 (2)	47 (2)	48 (2)	278
R10	29 (1)	30 (1)	20 (1)	39 (2)	48 (2)	37 (2)	203
R11	25 (1)	29 (1)	30 (1)	20 (1)	39 (2)	48 (2)	191
R12	24 (1)	25 (1)	29 (1)	30 (1)	20 (1)	39 (2)	167

＜東小学校＞

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計
R6	22 (1)	21 (1)	18 (1)	31 (1)	21 (1)	30 (1)	143
R10	16 (1)	15 (1)	13 (1)	16 (1)	22 (1)	21 (1)	103
R11	15 (1)	16 (1)	15 (1)	13 (1)	16 (1)	22 (1)	97
R12	18 (1)	15 (1)	16 (1)	15 (1)	13 (1)	16 (1)	93

＜知波田小学校＞

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計
R6	26 (1)	16 (1)	30 (1)	19 (1)	26 (1)	18 (1)	135
R10	13 (1)	15 (1)	7 (1)	23 (1)	26 (1)	16 (1)	100
R11	10 (1)	13 (1)	15 (1)	7 (1)	23 (1)	26 (1)	94
R12	6 (1)	10 (1)	13 (1)	15 (1)	7 (1)	23 (1)	74

＜湖西中学校＞

	1 年	2 年	3 年	合計
R6	41 (2)	57 (2)	56 (2)	154
R10	48 (2)	50 (2)	47 (2)	145
R11	37 (2)	48 (2)	50 (2)	135
R12	48 (2)	37 (2)	48 (2)	133
R13	39 (2)	48 (2)	37 (2)	124
R14	20 (1)	39 (2)	48 (2)	107
R15	30 (1)	20 (1)	39 (2)	89
R16	29 (1)	30 (1)	20 (1)	79
R17	25 (1)	29 (1)	30 (1)	84
R18	24 (1)	25 (1)	29 (1)	78

＜湖西中学校＋岡崎中学校＞

	1 年	2 年	3 年	合計
R6	159 (5)	182 (6)	178 (6)	519
R10	187 (6)	176 (6)	163 (5)	526
R11	158 (5)	187 (6)	176 (6)	521
R12	156 (5)	158 (5)	187 (6)	501
R13	152 (5)	156 (5)	158 (5)	466
R14	129 (4)	152 (5)	156 (5)	437
R15	141 (5)	129 (4)	152 (5)	422
R16	133 (4)	141 (5)	129 (4)	403
R17	134 (4)	133 (4)	141 (5)	408
R18	122 (4)	134 (4)	133 (4)	389

8. その他

学校再編に関するこれまでの検討については、下記 2 次元コードからご確認ください。また、アンケートについてご不明な点などございましたら、お手数ですが学校教育課までご連絡ください。



担当：学校教育課（大石・戸田）／電話 576-4798

②アンケート調査用紙

こちらは、委員の皆様への参考資料です。
実際のアンケートはWEBでの回答となります。

<子育て世代アンケート(案)> 【北部地区】

※添付資料をご確認の上、お子様を含めたご家族でお考えいただき、ご回答ください。(各世帯につき1回)別添資料をご参考にしてください。

問1 お住まいの地区

- ☐ : 東小学校区
☐ : 新所 ☐ : 入出
☐ : 知波田小学校区
☐ : 横山 ☐ : 利木 ☐ : 大知波 ☐ : 青平 ☐ : 太田

2次元コードを読み取り、ウェブでの体裁をご確認ください。



問2 お子様の年齢・学年(兄弟関係は全てチェックを入れてください)

- ☐ : 未就学児
☐ : 0歳 (R6.4.2～) ☐ : 1歳 (R5.4.2～R6.4.1)
☐ : 2歳 (R4.4.2～R5.4.1) ☐ : 3歳 (R3.4.2～R4.4.1)
☐ : 4歳 (R2.4.2～R3.4.1) ☐ : 5歳 (H31.4.2～R2.4.1)
☐ : 6歳 (H30.4.2～H31.4.1)
☐ : 小学生
☐ : 1年 ☐ : 2年 ☐ : 3年 ☐ : 4年 ☐ : 5年 ☐ : 6年

問3 望ましいと考える学校再編案を選択してください。

※代替案を選択された場合は、お考えの再編案をご記入ください。

☐	A案	東小と知波田小を統合し、中学校は岡崎中学校に統合
☐	B案	小中一体型(東小・知波田小・湖西中)の学校
☐	代替案	A・B案以外の再編案をご記入ください。 (例)・東小、知波田小を岡崎小に統合(中学校は岡崎中) ・東小は鷺津小に統合(中学校は鷺津中)、知波田小は岡崎小に統合(中学校は岡崎中) など

問4 問3の再編案を選んだ理由をご記入ください。

※自由記述

問5 学校再編に関してご意見等ありましたら、ご記入ください。

※自由記述

3. バス通学に関する検討

1. 前提

①作成する通学路案

- ・「A案：東小学校と知波田小学校を統合し、中学校は岡崎中学校に統合」、「B案：小中一体型（東小学校・知波田小学校・湖西中学校）の学校」、の通学路を検討する。

②検討の前提

- ・児童生徒数は令和5年5月1日時点の行政区ごとの児童生徒数をもとに令和10年度時点の対象児童生徒数を推計し、検討に用いる。
- ・現状では行政区内のどこに対象児童生徒が在住かが不明であるため、都市計画図等を概観し、住宅等がある地点のうち最も遠い地点の学校からの距離を測定し、当該行政区の学校からの距離とする。
- ・再編後の通学路は、既存通学路をもとに設定する。
- ・バス通学のルートについても、既存通学路をもとに設定する。
- ・再編後の通学路及びバス通学のルートは、再編後の学区内で検討する。

③バス通学の検討

- ・小学校は「3 km を超える地区をバス通学とする場合」を検討する。
- ・中学校は「6 km を超える地区をバス通学とする場合」を検討する。

④自転車通学の検討

- ・中学校については、自転車通学についても検討する。自転車通学は「2 km を超える地区を自転車通学とする場合」を検討する。

⑤検討結果概要

		小学校		中学校		
		バス	徒歩	バス	自転車	徒歩
A案	再編後の小学校 岡崎中学校	22 人	183 人	10 人	130 人	5 人
B案	小中一体型	22 人	183 人	0 人	102 人	43 人

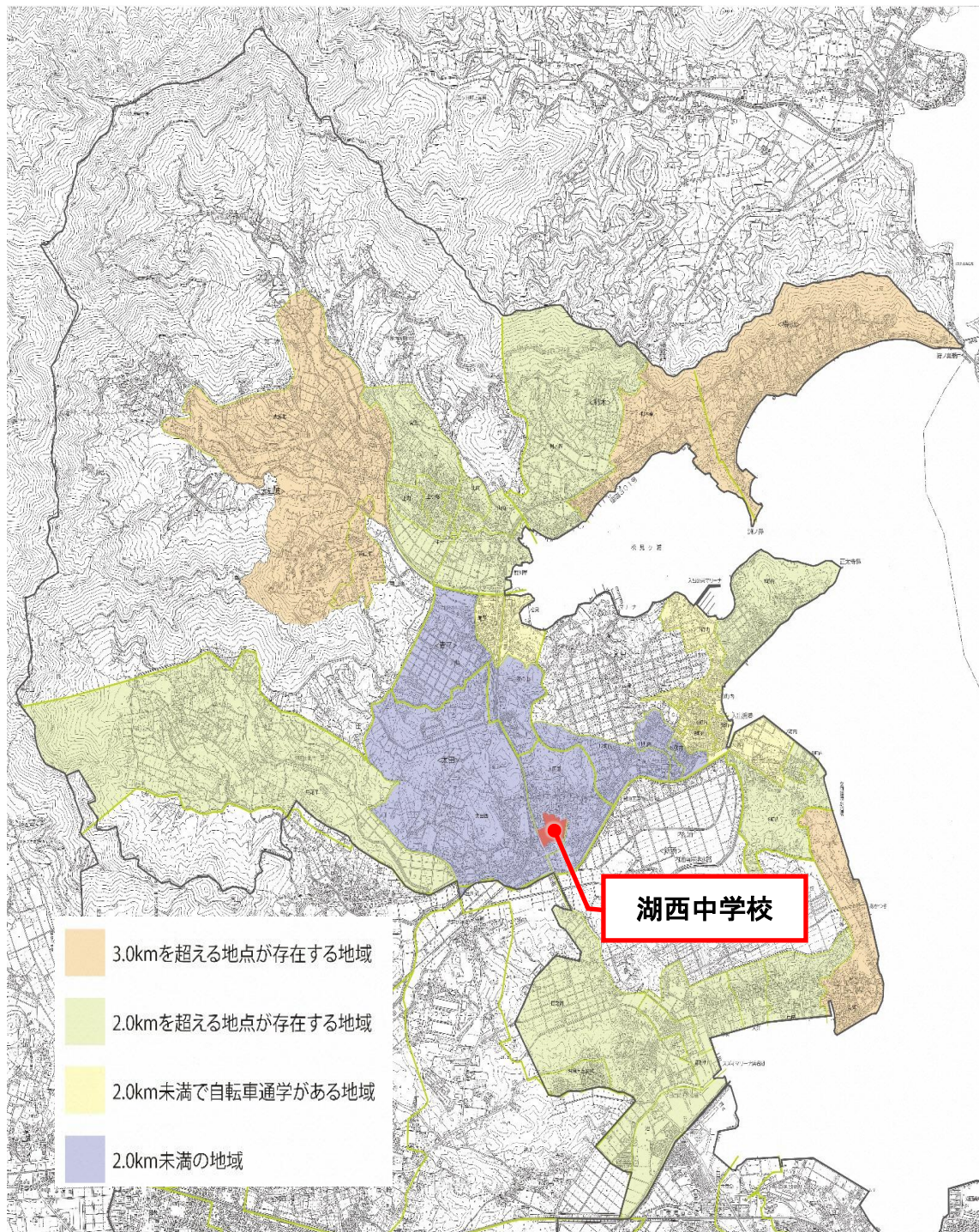
2. A案の通学路検討

①再編後の小学校における通学路の検討【3kmを超える地区をバス通学する場合】

A. バス通学対象地区の検討

バス通学の対象となる行政区は以下の通り。

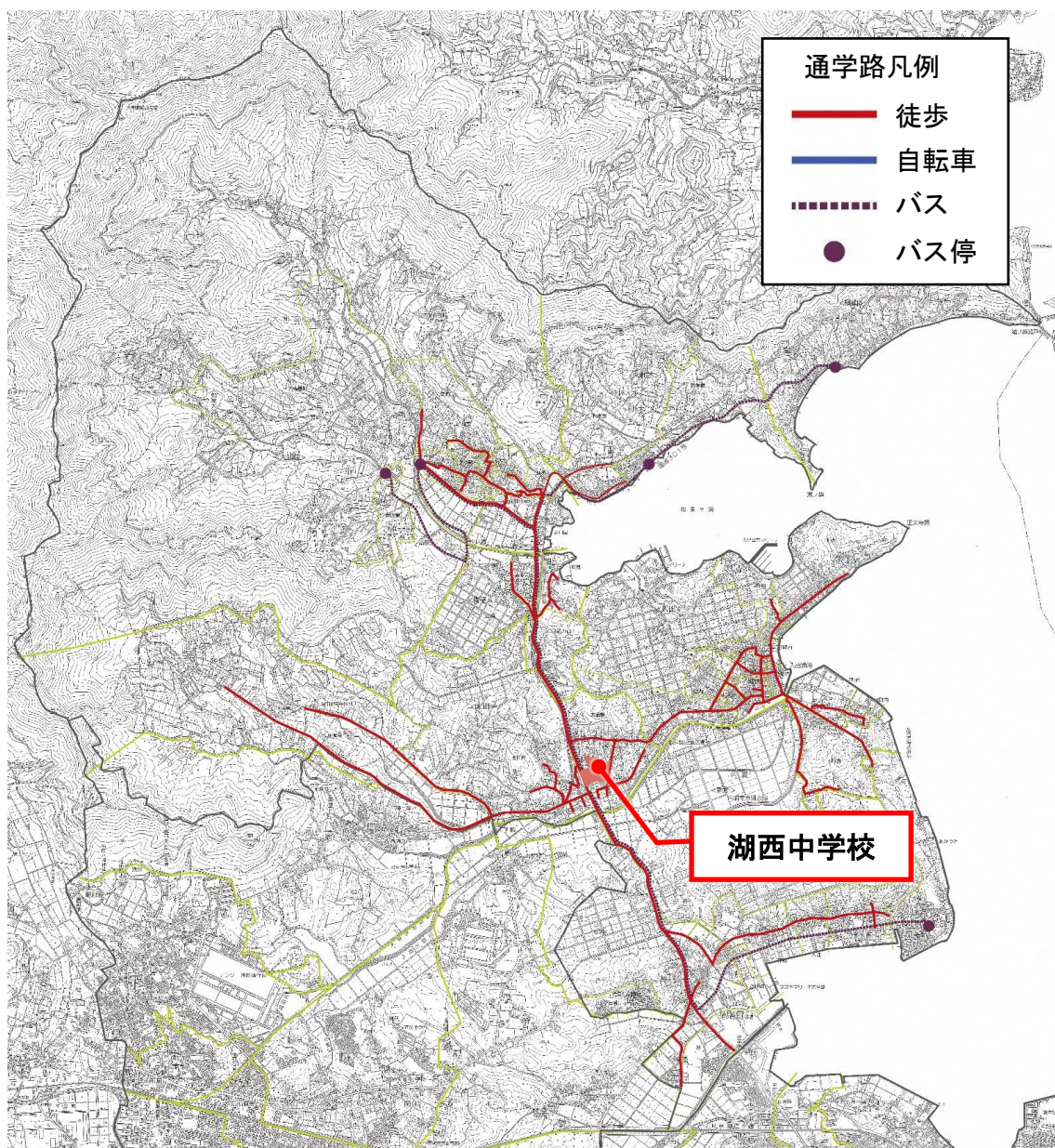
横山地区、利木地区の利木東、大知波地区の南山、南山東、小原町、新所地区の女河、あかつき。



B. バス通学のルートとバス停及び対象児童数の検討

ル ー ト	地区	行政区	バス停	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	計	
1	横山	横山	横山会館	0	0	0	0	1	1	2	
	利木	利木東	利木集会所前	0	0	0	1	2	1	4	
			新設小前	0	0	0	0	0	0	0	
				1	0	0	0	1	3	5	
2	大知波	南山	リッチランド北	0	0	0	3	0	0	3	
		南山東		1	0	1	1	1	0	4	
		大原町	大知波橋東	0	0	1	0	0	0	0	1
			新設小前	0	0	0	0	0	0	0	0
				0	1	0	2	4	1	8	
3	新所	女河	女河神社	1	0	0	1	0	1	3	
		あかつき		0	1	2	1	0	1	5	
			新設小前	0	0	0	0	0	0	0	
				1	1	2	2	0	2	8	
バス通学対象児童数				2	1	4	7	4	4	22	
徒歩通学児童数				28	30	17	32	43	33	183	
全児童数				30	31	21	39	47	37	205	

C. 通学路の検討



②再編後の岡崎中学校の通学路の検討

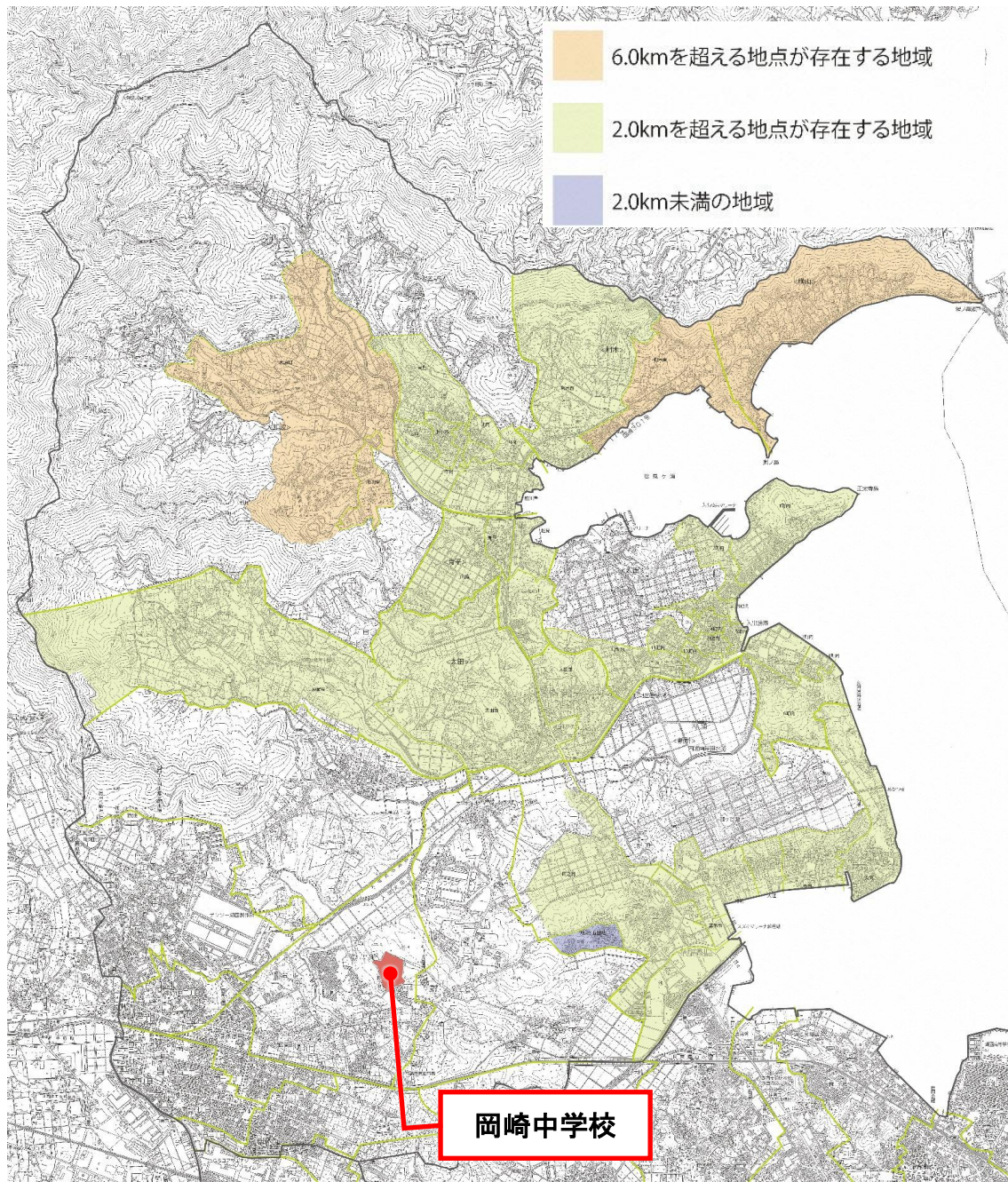
A. バス通学及び自転車通学対象地区の検討

バス通学の対象となる行政区は以下の通り。

横山地区、利木地区の利木東、大知波地区の南山、南山東、大原町。

また、自転車通学の対象となる行政区は以下の通り。

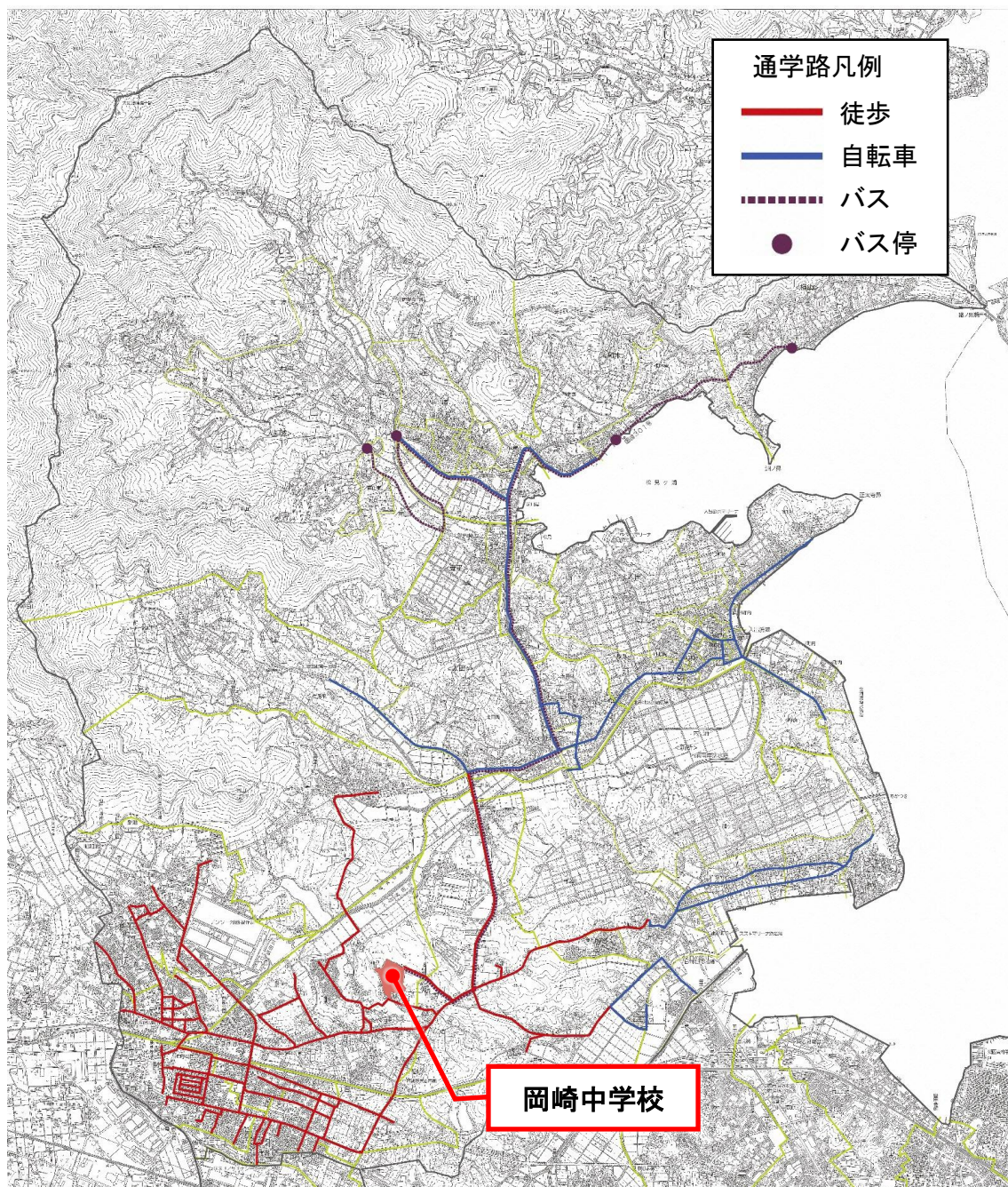
上記のバス通学の行政区と新所地区の月ヶ丘団地以外の行政区。



B. バス通学のルートとバス停、及びバス通学と自転車通学の対象生徒数の検討

ルート	地域	行政区	バス停	中 1	中 2	中 3	計
1	横山	横山	横山会館	1	0	1	2
	利木	利木東	利木集会所前	0	0	0	0
			岡崎中学校前	0	0	0	0
				1	0	1	2
2	大知波	南山	リッチランド北	2	1	0	3
		南山東		0	0	1	1
		大原町	大知波橋東	2	2	0	4
			岡崎中学校前	0	0	0	0
				4	3	1	8
バス通学対象生徒数				5	3	2	10
	利木	利木西		0	1	0	1
	大知波	山崎		2	1	1	4
		前川岸		1	2	4	7
		北向		0	0	1	1
		中村		1	0	2	3
		上小路		0	0	0	0
		上向		1	0	1	2
		宮町		0	0	0	0
		太田	中尾平		1	1	0
	太田東			2	4	4	10
	太田西			9	4	6	19
	青平	青平		0	1	0	1
		松見		4	1	2	7
		山脇		0	0	1	1
		花の山		3	1	2	6
	入出	1 町内		2	1	1	4
		2 町内		0	0	0	0
		3 町内		1	2	1	4
		4 町内		1	0	0	1
		5 町内		1	2	0	3
		6 町内		1	0	1	2
		7 町内		0	0	0	0
		8 町内		0	0	0	0
		9 町内		1	1	1	3
		10 町内		1	2	1	4
		11 町内		1	1	0	2
		12 町内		0	1	0	1
	新所	日之岡		2	7	1	10
		池		0	0	2	2
		正砂町		1	0	2	3
		神明		0	3	0	3
		入江		0	2	2	4
		中岡		4	4	4	12
		女河		1	1	1	3
		あかつき		0	3	2	5
自転車通学対象生徒数				41	46	43	130
	新所	月ヶ丘団地		1	1	3	5
徒歩通学生徒数				1	1	3	5
全生徒数				47	50	48	145

C. 通学路の検討



3. B案の通学路検討

①小中一体型の小学校の通学路の検討【3kmを超える地区をバス通学する場合】

A案の「3kmを超える地区をバス通学する場合」と同じ

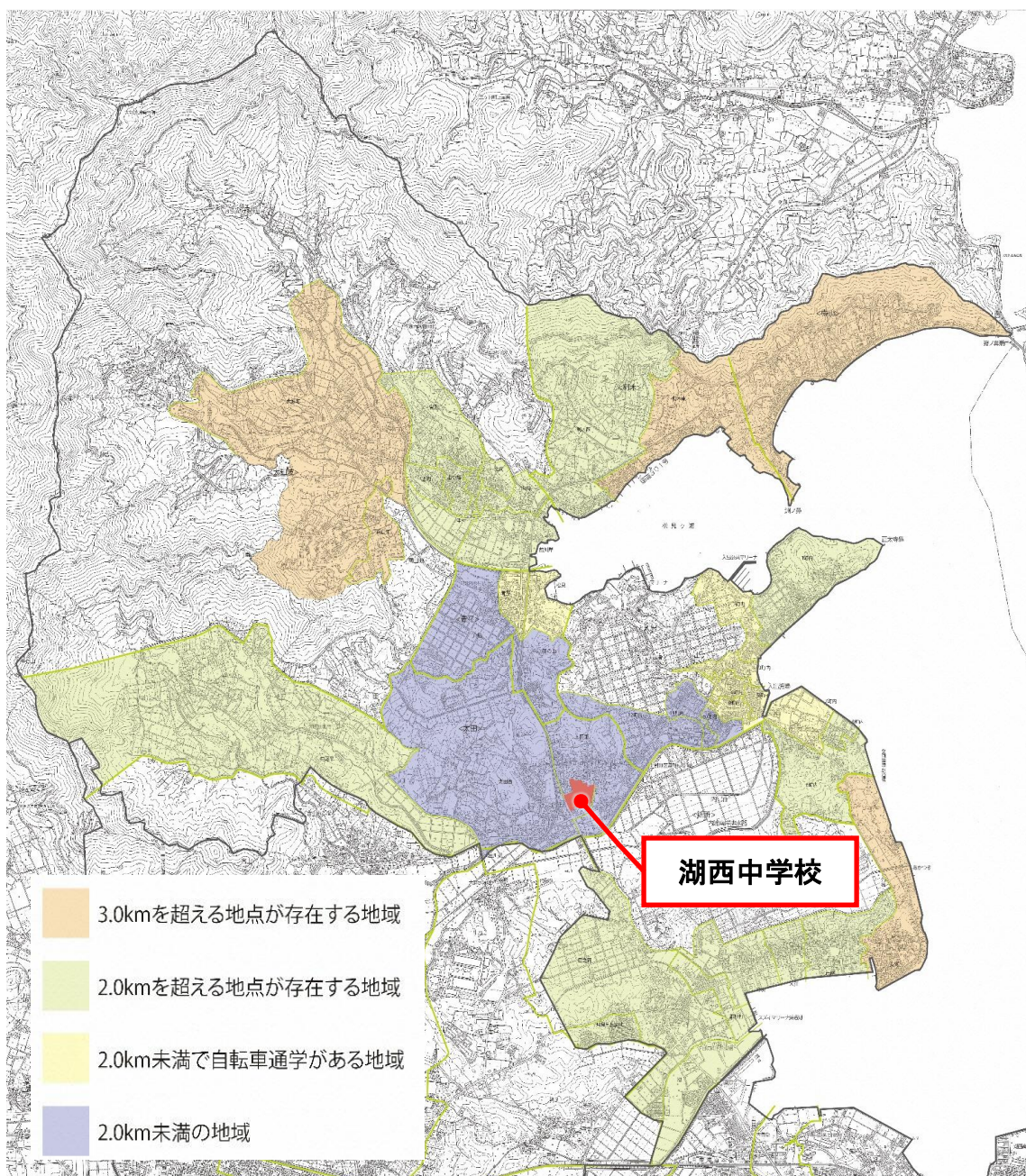
②小中一体型の中学校の通学路の検討

A. バス通学及び自転車通学対象地区の検討

バス通学の対象となる行政区はない。

自転車通学の対象となる行政区は以下の通り。

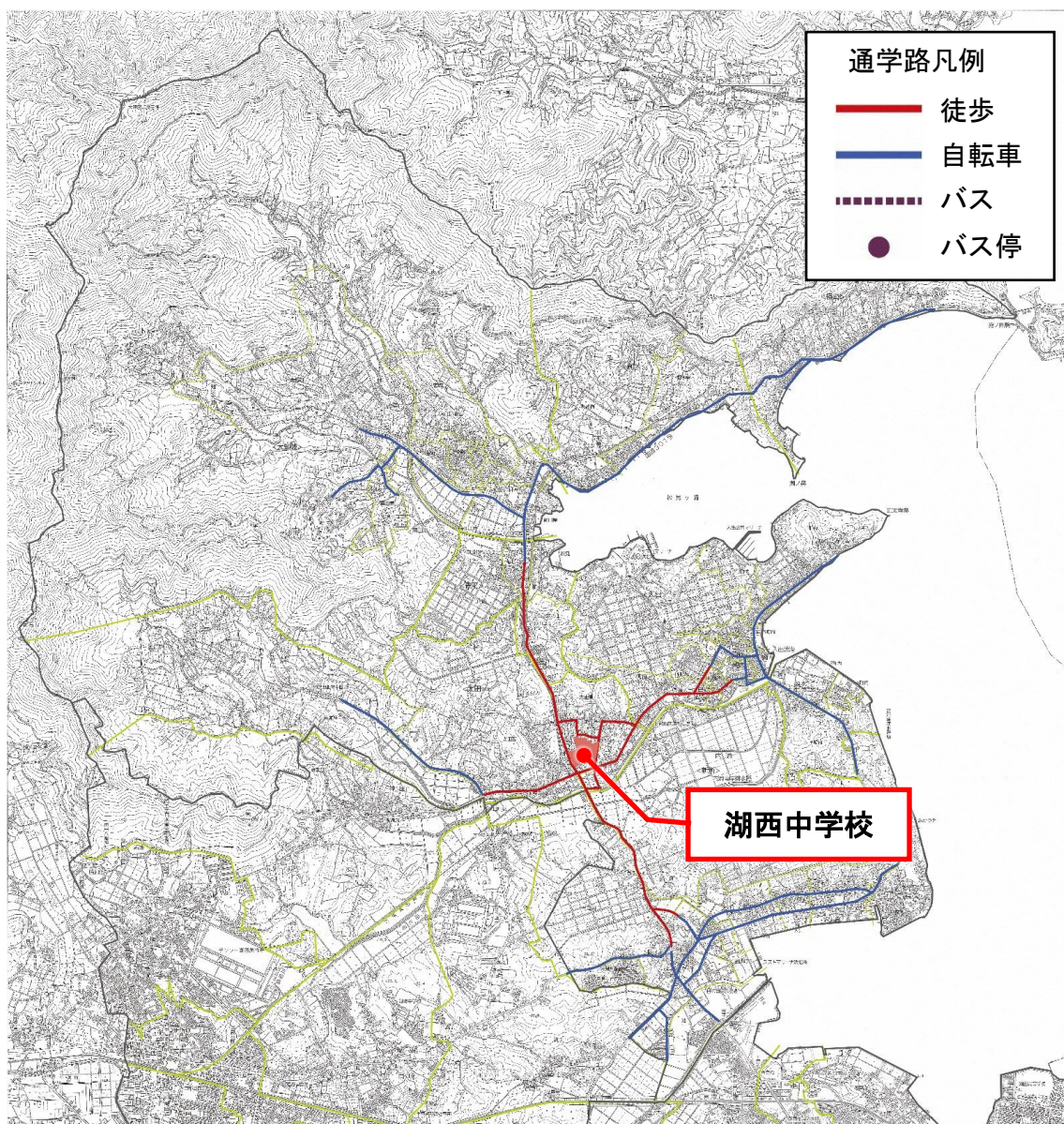
横山地区、利木地区全て、大知波地区全て、太田地区の中尾平、青平地区の青平、松見、入出地区の1-9町内、新所地区全て。



B. バス通学のルートとバス停、及びバス通学と自転車通学の対象生徒数の検討

ルート	地区	行政区	バス停	中 1	中 2	中 3	計
バス通学対象生徒数				0	0	0	0
	横山	横山		1	0	1	2
	利木	利木東		0	0	0	0
		利木西		0	1	0	1
	大知波	山崎		2	1	1	4
		前川岸		1	2	4	7
		北向		0	0	1	1
		中村		1	0	2	3
		上小路		0	0	0	0
		上向		1	0	1	2
		宮町		0	0	0	0
		大原町		2	2	0	4
		南山		2	1	0	3
		南山東		0	0	1	1
	太田	中尾平		1	1	0	2
	青平	青平		0	1	0	1
		松見		4	1	2	7
	入出	1 町内		2	1	1	4
		2 町内		0	0	0	0
		3 町内		1	2	1	4
		4 町内		1	0	0	1
		5 町内		1	2	0	3
		6 町内		1	0	1	2
		7 町内		0	0	0	0
		8 町内		0	0	0	0
		9 町内		1	1	1	3
	新所	日之岡		2	7	1	10
		月見ヶ丘団地		1	1	3	5
		池		0	0	2	2
		正砂町		1	0	2	3
		神明		0	3	0	3
		入江		0	2	2	4
		中岡		4	4	4	12
		女河		1	1	1	3
		あかつき		0	3	2	5
自転車通学対象生徒数				31	37	34	102
	太田	太田東		2	4	4	10
		太田西		9	4	6	19
	青平	山脇		0	0	1	1
		花の山		3	1	2	6
	入出	10 町内		1	2	1	4
		11 町内		1	1	0	2
		12 町内		0	1	0	1
徒歩通学対象生徒数				16	13	14	43
全生徒数				47	50	48	145

C. 通学路の検討



4. 北部地区学校再編検討委員会

第1回	開催日時	令和5年10月26日（木）	午後3時～4時30分
	会場	湖西市役所3階委員会室	
	参加者	29名（委員11名／事務局6名／傍聴者12名）	

第2回	開催日時	令和5年12月7日（木）	午後3時30分～4時30分
	会場	北部多目的センター 多目的ホール	
	参加者	27名（委員11名／事務局4名／傍聴者12名）	

第3回	開催日時	令和6年6月12日（水）	午後2時30分～4時30分
	会場	健康福祉センター（おぼと）	3階 研修室
	参加者	29名（委員11名／事務局5名／傍聴者13名）	

第4回	開催日時	令和6年9月17日（火）	午後2時30分～4時30分
	会場	北部多目的センター	1階 講座室
	参加者	27名（委員11名／事務局4名／傍聴者12名）	

第5回	開催日時	令和6年12月20日（金）	午後3時～4時30分
	会場	湖西市役所3階委員会室	
	参加者	25名（委員9名／事務局6名／傍聴者10名）	

第6回	開催日時	令和7年2月28日（金）	午後3時～4時20分
	会場	湖西市役所3階委員会室	
	参加者	26名（委員9名／事務局5名／傍聴者12名）	

5. 保護者、地域住民との意見交換会

年月日	項 目	参加人数
令和4年6月7日	地域住民意見交換会（北部多目的センター）	31 人
令和4年6月17日	保護者（東小学校）	11 人
令和4年6月24日	保護者（知波田小学校）	100 人
令和4年8月30日	地域住民意見交換会（北部多目的センター）	25 人
令和4年10月13日	地域住民意見交換会（北部多目的センター）	24 人
令和5年1月12日	地域住民意見交換会（北部多目的センター）	22 人
令和5年6月22日	地域住民意見交換会（北部多目的センター）	27 人
令和5年9月21日	保護者（知波田幼稚園）	18 人
令和5年9月22日	保護者（東小学校）	53 人
令和5年11月8日	保護者（知波田小学校）	22 人
令和6年1月27日	保護者（東小学校）	37 人
令和6年2月3日	保護者（知波田小学校）	12 人
令和6年2月27日	保護者（知波田幼稚園）	12 人
令和6年4月20日	保護者（東小学校）	13 人
令和6年4月24日	保護者（知波田小学校）	11 人
令和6年4月27日	地元自治会（新所）	19 人
令和6年5月9日	地元自治会（知波田地区）	12 人
令和6年5月15日	地元自治会（入出）	33 人
令和6年10月26日	保護者（東小学校）	23 人
令和6年10月26日	地元自治会（新所）	18 人
令和6年11月11日	保護者（知波田幼稚園）	2 人
令和6年11月11日	保護者（しらゆりこども園）	9 人
令和6年11月12日	保護者（知波田小学校）	51 人
令和6年11月14日	地元自治会（知波田）	11 人
令和6年11月15日	地元自治会（入出）	27 人
令和6年11月16日	地域住民意見交換会（北部多目的センター）	22 人